

A8V-E SE

ASUS[®]
Motherboard

J2027

初版

2005年7月

Copyright© 2005 ASUSTeK Computer Inc. All Rights Reserved.

バックアップの目的で利用する場合を除き、本書に記載されているハードウェア・ソフトウェアを含む、全ての内容は、ASUSTeK Computer Inc. (ASUS)の文書による許可なく、編集、転載、引用、放送、複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

以下の場合、保証やサービスを受けることができません。

(1)ASUSが明記した方法以外で、修理、改造、交換した場合。

(2)製品のシリアル番号が読むことができない状態である場合。

ASUSは、本マニュアルについて、明示の有無にかかわらず、いかなる保証もいたしません。ASUSの責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品に起因するいかなる損害（利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む）に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負いません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的にのみ提供するものです。また、予告なしに内容は変更されることがあり、この変更についてASUSはいかなる責任も負いません。本書およびハードウェア、ソフトウェアに関する不正確な内容について、ASUSは責任を負いません。

本マニュアルに記載の製品名及び企業名は、登録商標や著作物として登録されている場合がありますが、本書では、識別、説明、及びユーザーの便宜を図るために使用しており、これらの権利を侵害する意図はありません。

目次

ご注意	vi
安全上の注意	vii
このマニュアルについて	viii
マニュアルの概要	viii
詳細情報	viii
このマニュアルの表記に付いて	ix
A8V-E SE 仕様一覧	x
Chapter 1: 製品の概要	
1.1 ようこそ	1-2
1.2 パッケージの内容	1-2
1.3 特徴	1-3
1.3.1 製品の特徴	1-3
1.3.2 ASUS 独自機能	1-5
1.4 始める前に	1-6
1.5 マザーボードの概要	1-7
1.5.1 設置方向	1-7
1.5.2 ネジ穴	1-7
1.5.3 マザーボードのレイアウト	1-8
1.6 CPU	1-9
1.6.1 概要	1-9
1.6.2 CPUを取り付ける	1-9
1.6.3 CPU にヒートシンクとファンを取り付ける	1-11
1.7 システムメモリ	1-13
1.7.1 概要	1-13
1.7.2 メモリ構成	1-13
1.7.3 メモリを取り付ける	1-16
1.7.4 メモリを取り外す	1-16
1.8 拡張スロット	1-17
1.8.1 拡張カードを取り付ける	1-17
1.8.2 拡張カードを設定する	1-17
1.8.3 割り込み割り当て	1-18
1.8.4 PCI スロット	1-19
1.8.5 PCI Express x16 スロット	1-19

目次

1.8.6	PCI Express x1 スロット	1-19
1.9	ジャンパ	1-20
1.10	コネクタ	1-22
1.10.1	リアパネルコネクタ	1-22
1.10.2	内部コネクタ	1-23
Chapter 2: BIOS のセットアップ		
2.1	BIOS の管理更新	2-2
2.1.1	ブートフロッピーディスクを作成する	2-2
2.1.2	BIOS ファイルを更新する	2-3
2.1.3	現行の BIOS ファイルを保存する	2-5
2.1.4	ASUS CrashFree BIOS 2 ユーティリティ	2-6
2.1.5	ASUS EZ Flash ユーティリティ	2-8
2.1.6	ASUS Update ユーティリティ	2-9
2.2	BIOS 設定プログラム	2-12
2.2.1	BIOS メニュー画面	2-13
2.2.2	メニューバー	2-13
2.2.3	レジェンドバー	2-14
2.2.4	メニュー	2-14
2.2.5	サブメニュー	2-14
2.2.6	構成フィールド	2-14
2.2.7	ポップアップウィンドウ	2-15
2.2.8	ヘルプ	2-15
2.3	メインメニュー	2-16
2.3.1	System Time	2-16
2.3.2	System Date	2-16
2.3.3	Legacy Diskette A	2-16
2.3.4	Primary、Secondary IDE Master/Slave	2-17
2.3.5	HDD SMART Monitoring	2-18
2.3.6	Installed Memory	2-18
2.4	拡張メニュー	2-19
2.4.1	JumperFree Configuration	2-19
2.4.2	LAN Cable Status	2-21
2.4.3	PEG Link Mode	2-22
2.4.4	CPU の設定	2-22

目次

2.4.5	チップセット	2-22
2.4.6	PCI PnP	2-25
2.4.7	オンボードデバイス構成.....	2-27
2.4.8	USB の設定.....	2-28
2.5	電源メニュー	2-29
2.5.1	ACPI Suspend Type	2-29
2.5.2	ACPI APIC Support	2-29
2.5.3	APM の設定	2-30
2.5.4	ハードウェアモニタ	2-32
2.6	ブートメニュー.....	2-33
2.6.1	ブートデバイス優先順位.....	2-34
2.6.2	リムーバルドライブ	2-34
2.6.3	ハードディスクドライブ.....	2-34
2.6.4	CDROM ドライブ	2-35
2.6.5	ブート設定	2-35
2.6.6	セキュリティ	2-37
2.7	終了メニュー	2-38
Chapter 3: ソフトウェア		
3.1	OSをインストールする.....	3-2
3.2	サポート CD 情報.....	3-2
3.2.1	サポート CDを実行する	3-2
3.2.2	ドライバメニュー.....	3-3
3.2.3	ユーティリティメニュー.....	3-4
3.2.4	ASUS コンタクトインフォメーション	3-5

ご注意

Federal Communications Commission Statement

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.



The use of shielded cables for connection of the monitor to the graphics card is required to assure compliance with FCC regulations. Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

Canadian Department of Communications Statement

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

安全上の注意

電気の取り扱い

- ・ 本製品について作業を行う場合は、感電防止のため、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品に周辺機器を接続する場合は、本製品および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。可能ならば、関係するすべての機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品にケーブルを接続する場合は、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 電源延長コードや特殊なアダプタを用いる場合は専門家に相談してください。これらは、短絡事故の原因になる場合があります。
- ・ 正しい電圧でご使用ください。ご使用になる地域の出力電力がわからない場合は、お近くの電力会社にお尋ねください。
- ・ 電源装置は、ご自分で修理しようとししないでください。修理は販売代理店などに依頼してください。

操作上の注意

- ・ 作業を行う前に、本製品に付属のマニュアルをよくお読みください。
- ・ 電源を入れる前に、ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。また電源コードに損傷がないことを確認してください。
- ・ マザーボード上にクリップやネジなどの金属を落とさないようにしてください。短絡事故の原因になります。
- ・ 埃・湿気・高温・低温を避けてください。湿気のある場所で本製品を使用しないでください。
- ・ 本製品は安定した場所に設置してください。
- ・ 本製品を修理する場合は、販売代理店などに依頼してください。

このマニュアルについて

このマニュアルには、マザーボードの取り付けや構築の際に必要な情報が記してあります。

マニュアルの概要

- Chapter 1 : 製品の概要
マザーボードの機能とサポートする新機能についての説明。また、コンポーネントの取り付けに必要なハードウェアのセットアップ手順も記載。ジャンパの説明もあります。
- Chapter 2: BIOSのセットアップ
BIOS セットアップメニューでのシステム設定の変更方法。
BIOS パラメータの詳細。
- Chapter 3: ソフトウェア
マザーボードパッケージに付属のサポート CD の内容。

詳細情報

本書に記載できなかった最新の情報は以下で入手できます。また、BIOSや添付ソフトウェアの最新版があります。必要に応じてご利用ください。

1. ASUS Webサイト (<http://www.asus.co.jp/>)
各国や地域に対応したサイトを設け、ASUSのハードウェア・ソフトウェア製品に関する最新情報が満載です。
2. 追加ドキュメント
パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や購入店・販売店などが追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。

このマニュアルの表記について

本製品を正しくお取り扱い頂くために以下の表記を参考にしてください。



危険/警告：本製品を取り扱う上で、人体への危険を避けるための情報です。



注意：本製品を取り扱う上で、コンポーネントへの損害を避けるための情報です。



重要：本製品を取り扱う上で、必要な指示です。



注記：本製品を取り扱う上でのヒントと追加情報です。

表記

<Key>

<> で囲った文字は、キーボードのキーです。

例: <Enter> → Enter もしくは リターンキーを押してください。

<Key1+Key2+Key3>

一度に2つ以上のキーを押す必要がある場合は(+)を使って示しています。

例: <Ctrl+Alt+D>

Command

表記されている通りのコマンドを入力してください。続けて[]で指示している文字列または値を入力してください。

例: DOS プロンプトで、コマンドラインを入力

```
afudos /i[filename]
```



```
afudos /A8V_E SE.ROM
```

A8V-E SE 仕様一覧

CPU	Socket 939 (AMD Athlon™ 64/AMD Athlon™ 64FX/ AMD Athlon™ 64 X2 プロセッサ対応) AMD 64 アーキテクチャ対応 (32-bit と 64-bit アーキテ クチャの同時利用が可能) AMD Cool 'n' Quiet! Technology 対応
チップセット	ノースブリッジ: VIA® K8T890 サウスブリッジ: VIA® VT8237R
システムバス	2000/1600 MT/s
メモリ	デュアルチャンネルメモリアーキテクチャ対応 184 ピン メモリソケット×4 (ECC/non-ECC Unbuffered 400/333/266 MHz DDR メモリ対応) 最大4 GB システムメモリをサポート
拡張スロット	PCI Express™ x16 スロット×1 (ディスクリートビデオカード用) PCI Express x1 スロット×2 PCI スロット×3
記憶装置	VIA® VT8237R サウスブリッジのサポート: - Ultra DMA 133/100/66/33 ×2 - Serial ATA (RAID 0、RAID 1、JBOD) ×2
AI オーディオ	Realtek® ALC850 8 チャンネル CODEC 同軸 S/P DIF 出力ポート Audio Sensing と Retasking Technology 対応
LAN	Marvell® 88E8053 PCI Express™ Gigabit LAN コントローラ Marvell® Virtual Cable Tester テクノロジー対応 POST Network 診断プログラム対応
USB	USB 2.0ポートを8つサポート
AI オーバクロック	ASUS AI Overclocking (インテリジェント CPU チューナー) ASUS C.P.R. (CPU Parameter Recall) ASUS JumperFree CPU、メモリ、チップセット電圧調節可能 Stepless Frequency Selection(SFS) : 200 MHz から 400 MHz (1 MHz インCREMENT)
独自機能	ASUS PEG Link ASUS AI NET2 ASUS Q-Fan ASUS CrashFree BIOS 2 ASUS MyLogo2

(次項へ)

A8V-E SE 仕様一覧

BIOS	4 MB Flash ROM、Award BIOS、PnP、DMI2.0、WfM2.0、SM BIOS 2.3
リアパネル	Parallel ポート×1 LAN (RJ-45) ポート×1 USB 2.0 ポート×4 同軸 S/PDIF 出力ポート×1 PS/2 キーボードポート×1 PS/2 マウスポート×1 8 チャンネルオーディオポート
内部コネクタ	フロッピーディスクドライブコネクタ×1 IDE コネクタ×2 Serial ATA コネクタ×2 CPU ファンコネクタ×1 電源ファンコネクタ×1 ケースファンコネクタ×1 Serial ポートコネクタ (COM ポート)×1 24ピン ATX 電源コネクタ×1 4ピン ATX 12 V 電源コネクタ×1 USB 2.0 コネクタ (追加 USB 2.0 を 4 ポート対応) ×2 GAME/MIDI コネクタ×1 ケース開閉検出コネクタ×1 フロントパネルオーディオコネクタ×1 内部オーディオ(CD/AUX) コネクタ×1 システムパネルコネクタ
電源	ATX 電源(24ピン/4ピン12V プラグ付属) ATX 12 V 2.0 互換
フォームファクター	ATX フォームファクタ:12 in × 9.6 in (30.5 cm × 24.4 cm)
サポート CD	デバイスドライバ ASUS PC Probe ASUS Live Update ユーティリティ アンチウィルスソフト (OEM 版)

*仕様は予告なく変更することがあります。

マザーボードの機能とサポートする新機能について説明します。

1 製品の 概要

1.1 ようこそ

ASUS® A8V-E SE マザーボードをお買い上げいただき、ありがとうございます。

このマザーボードは多くの新機能と最新のテクノロジーを提供するASUSの高品質マザーボードです。

マザーボードとハードウェアデバイスの取り付けを始める前に、パッケージの中に以下のものが揃っていることを確認してください。

1.2 パッケージの内容

マザーボードパッケージに次のアイテムがあることを確認してください。


マザーボード	ASUS A8V-E SE マザーボード
ケーブル	Serial ATA ケーブル× 2 Serial ATA 電源ケーブル× 2 Ultra ATA/133 ケーブル× 1 40 コンダクタ IDE ケーブル× 1 フロッピーディスクドライブ ケーブル× 1
アクセサリ	I/O シールド
アプリケーション CD	ASUS マザーボードサポート CD
ドキュメント	ユーザーマニュアル (本書)



付属品が足りないときや破損しているときは、販売店にご連絡ください。

1.3 特徴

1.3.1 製品の特徴

AMD Dual-Core アーキテクチャ 

本製品は2つの物理CPUコア（各コアにディスクリット L2 キャッシュ構造）を含む AMD プロセッサに対応。より高いパフォーマンスを実現します。（詳細 1-9 参照）

最新のプロセッサテクノロジー 

AMD Athlon™ 64FX と Athlon™ 64 デスクトッププロセッサは AMD の 64-bit と 32-bit アーキテクチャがベースとなっており、業界初の x86-64 テクノロジーを代表するものです。これらのプロセッサは劇的な互換性、パフォーマンス、コスト削減を実現しました。（詳細 1-9 参照）

HyperTransport™ Technology 

HyperTransport™ Technology は高速、低レイテンシで、また、統合型回路とコンピューター間、ネットワークとテレコミュニケーションデバイス間のコミュニケーションの高速化を実現する point-to-point リンク設計で、既存の技術と比較し最大 48 倍高速化しました。

AMD Cool ‘n’ Quiet!™ Technology 

本製品は AMD Cool ‘n’ Quiet!™ Technology をサポート。CPU の負荷に応じて自動的に CPU のスピード、電圧、電力を効果的に調節します。

Dual Channel DDR メモリサポート 

Double Data Rate (DDR) メモリテクノロジーを採用し、DDR400/333/266 メモリを使用して、最高 4GB のシステムメモリをサポートします。超高速 400MHz メモリバスで、バンド幅は最新の 3D グラフィック、マルチメディア、インターネットアプリケーションに対応可能です。（詳細 1-13 参照）

Serial ATA テクノロジ

Serial ATA テクノロジをサポートしています。Serial ATA は少ないピン数で、より薄く柔軟なケーブルを実現し、最高 150 MB/s のデータ転送率が可能です。
(詳細 1-25 参照)

PCI Express™ インターフェース

マザーボードは、PCI Express をサポートし、PCI バスのスピードアップを図っています。PCI Express は各デバイス間で point-to-point シリアル相互接続を提供し、より高いクロックでの動作を実現しています。この高速インターフェースは既存の PCI 仕様とソフトウェアによる互換性があります。(詳細 1-19 参照)

AI Audio Technology

16bit DAC、ステレオ 16bit ADC、マルチメディア対応設計の AC97 2.3 互換マルチチャンネルオーディオ内蔵の ALC850 CODECを通じて 8 チャンネルオーディオをサポートしています。また、Jack-Sensing 機能、S/P DIF 出力をサポート。割り込み能力にも優れ、Realtek® 特許の UAJ® (Universal Audio Jack) テクノロジにも対応しています。(詳細 1-22、1-23 参照)

S/P DIF デジタルサウンド対応

本マザーボードは、S/P DIF 出力機能をサポートしています。S/P DIF テクノロジは、お使いのコンピュータをパワフルなオーディオおよびスピーカーシステムにデジタル接続できる高性能エンターテインメントシステムに変えることができます。
(詳細 1-23 参照)

USB 2.0 Technology

USB 2.0 仕様を実装して、接続速度を USB 1.1の12 Mbps バンド幅から USB 2.0 の高速 480 Mbpsに大幅に高めています。USB 2.0 は USB 1.1と下位互換性があります。(詳細 1-21、1-23、1-27 参照)

温度、ファン、電圧のモニタ機能

CPU 温度は ASIC (integrated in the Winbond Super I/O)によりモニタされ、オーバーヒートから大切なマシンを守ります。ファンの回転速度 (RPM) も迅速に問題を検出するためにモニタされます。ASIC は電圧をモニタし、コンポーネントへの電源供給を安定させます。(詳細 2-32 参照)

1.3.2 ASUS独自機能

AI NET 2

BIOS ベースの診断ツールで、イーサネットケーブルの障害とショートを検出して報告します。このユーティリティを使用すると、LAN (RJ-45)ポートに接続されたイーサネットケーブルの状態を簡単にモニタできます。起動プロセスの間に、AI NET 2 は LAN ケーブルを直ちに検出して、故障とショートを1メートル単位で最大100メートルまで検出し報告します。（詳細 2-21 参照）

Precision Tweaker

CPU/メモリの電圧を調整し、フロントサイドバス(FSB)と PCI Express 周波数を段階的に増加させ、最高のシステムパフォーマンスが得られます。（詳細 2-21 参照）

PEG Link Mode

マザーボードが自動的にPCI Express グラフィックリンクモードを調整してシステム設定に応じた周波数に修正することで、PCI Express ビデオカードのパフォーマンスを拡張します。（詳細 2-22 参照）

CrashFree BIOS 2

BIOS コードとデータが破損した場合に、サポートCDからオリジナルの BIOS データを復元することができます。これで、交換用 ROMチップを購入する必要がなくなります。（詳細 2-6 参照）

ASUS Q-Fan

システムの負荷に応じてファンスピードを調整し、ノイズを抑えながら効果的に冷却します。（詳細 2-32 参照）

ASUS MyLogo2™

この機能を使用すると、自分で選んだブートロゴを表示することができます。

1.4 始める前に

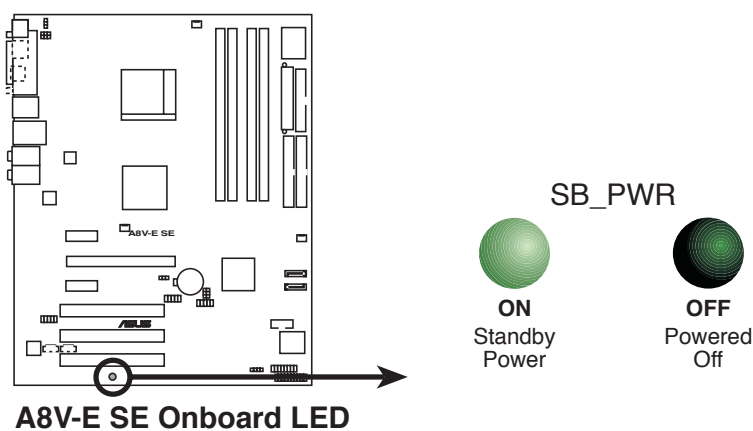
マザーボードのパーツの取り付けや設定を変更する前に、次の事項に注意してください。



- ・ 各パーツを取り扱う前に、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- ・ 静電気による損傷を防ぐために、各パーツを取り扱う前に、静電気除去装置に触れるなど、静電気対策をしてください。
- ・ ICに触れないように、各パーツは両手で端を持つようにしてください。
- ・ 各パーツを取り外すときは、必ず静電気防止パッドの上に置くか、コンポーネントに付属する袋に入れてください。
- ・ パーツの取り付け、取り外しを行う前に、ATX電源ユニットのスイッチがOFFの位置にあるか、電源コードが電源から抜かれていることを確認してください。電力が供給された状態での作業は、感電、故障の原因となります。

オンボードLED

マザーボードにはスタンバイ LED が搭載されています。緑のLEDが点灯している時は、電力が供給されていることを示します。これは、マザーボードに各パーツを取り付けたり、取り外したりする前に、システムをOFFにし、電源ケーブルを抜く必要があることを意味しています。下のイラストは、オンボードLEDの場所を示しています。



1.5 マザーボードの概要

マザーボードを取り付ける前に、ケースの構成を調べて、マザーボードがケースにフィットすることを確認してください。



マザーボードの取り付け、取り外しを行う前に、必ず電源コードを抜いてください。感電、故障の原因となります。

1.5.1 設置方向

マザーボードが正しい向きでケースに取り付けられているかを確認してください。外部ポートをケースの背面部分に合わせます。

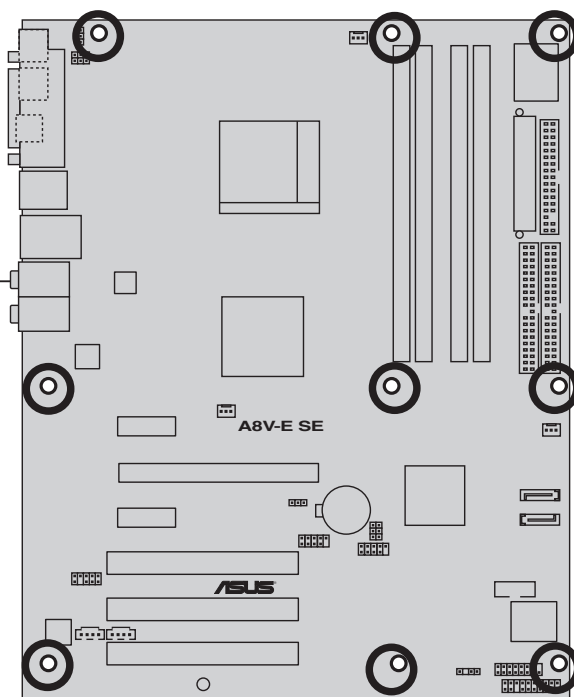
1.5.2 ネジ穴

ネジ穴は9カ所あります。ネジ穴の位置を追わせてマザーボードをケースに固定します。

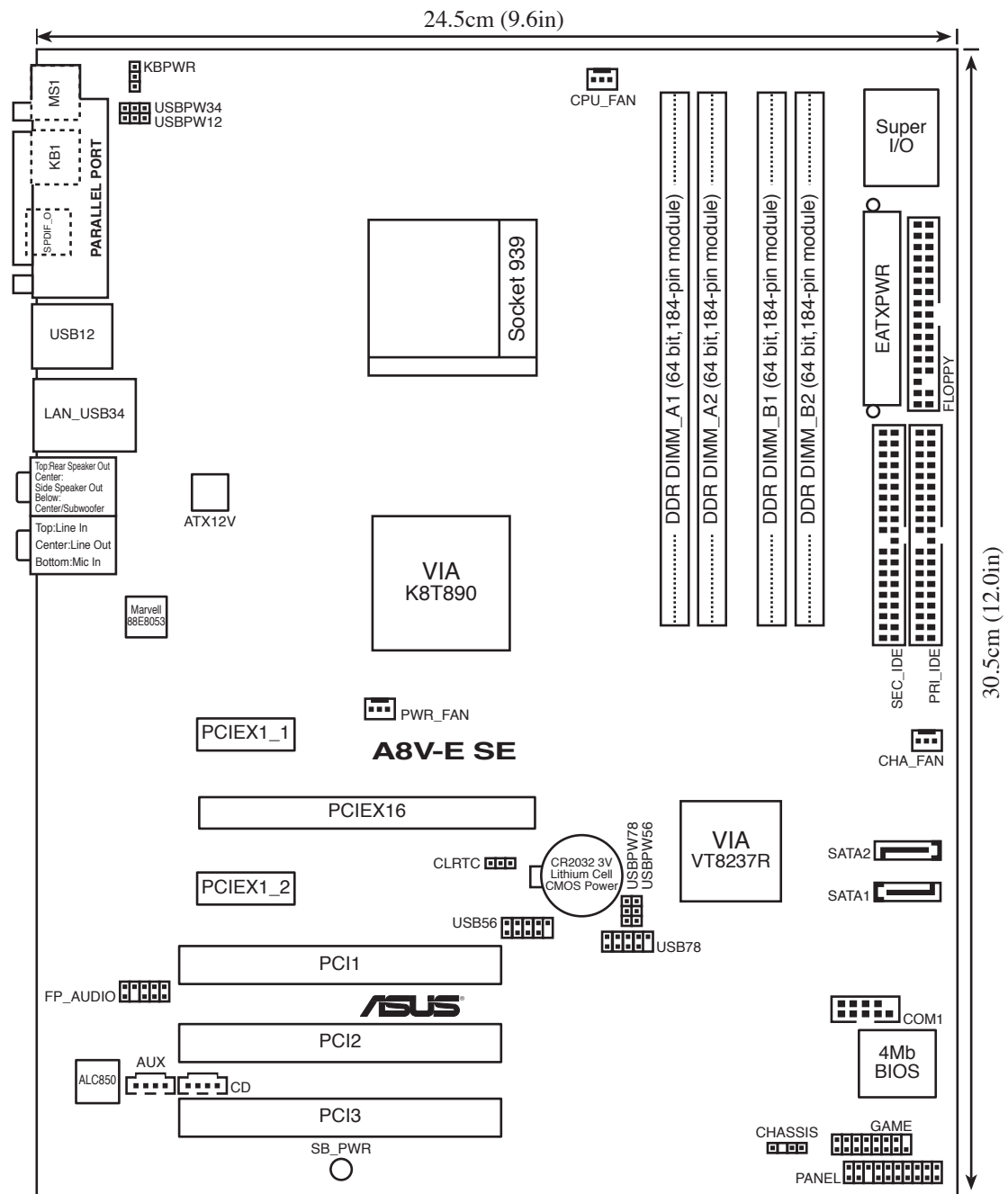


ネジをきつく締めすぎないでください。マザーボードの破損の原因となります。

この面をケースの背面に合わせます。



1.5.3 マザーボードのレイアウト



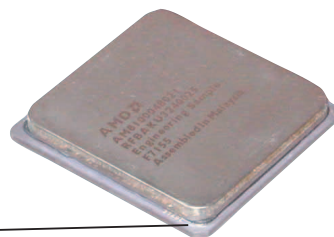
1.6 CPU

1.6.1 概要

本製品には、AMD Athlon™ 64FX、AMD Athlon 64™、AMD Sempron™ プロセッサ対応の 939 ピン ZIF ソケット (Zero Insertion Force) が搭載されています。

128-bit のデータパスにより、32-bit、64-bit データパスのプロセッサよりアプリケーションの動作がより高速になりました。

CPU の金色の三角形とソケットの所定のコーナーの位置を正しく合わせます。

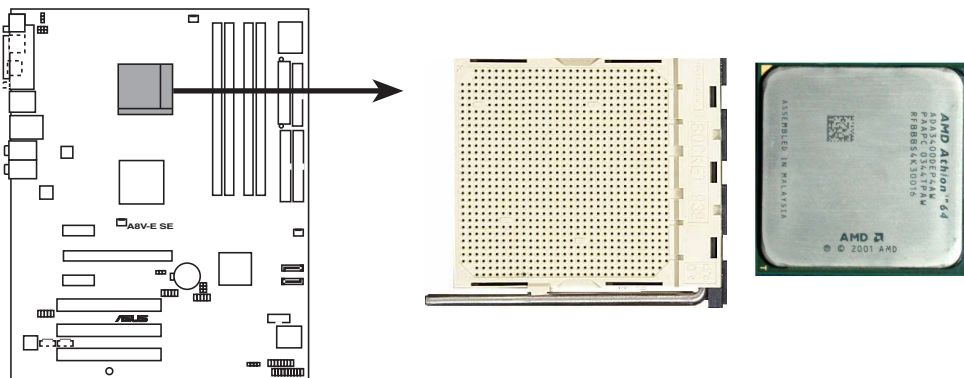


金色の三角形

1.6.2 CPUを取り付ける

手順

1. マザーボードの CPU ソケットを探します。



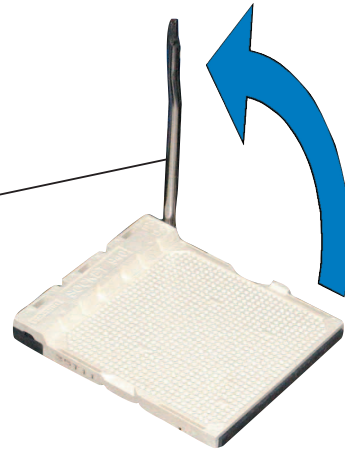
A8V-E SE CPU Socket 939



CPUを取り付ける前にCPUソケットを手前に向け、ロードレバーが向かって左側にあることを確認してください。

2. 脇にあるレバーを押し、ソケットを解除します。次に、90° から100° ほど持ち上げます。

ソケットレバー



90° から100° ほど持ち上げないと、正しく取り付けることができません。ご注意ください。

3. CPU に書かれている金色の三角形がソケットとソケットの三角の部分がぴったり合うようにCPUをソケットの上に載せます。

4. CPU をソケットにしっかり押します。



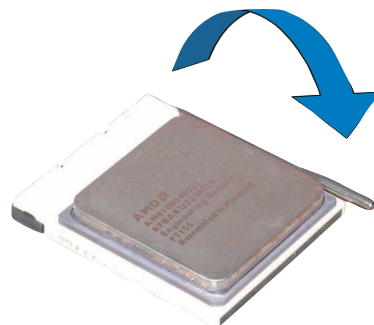
小さな三角形

金色の三角形



CPU は一方向にのみぴったり合うようになっています。CPU をソケットに無理に押し込まないでください。ソケットのコネクタが曲がったり、CPU が破損したりする原因となります。

5. CPU がしっかりはまったら、ソケットのレバーを押し、CPU を固定します。レバーがしっかりはまると、カチッと音がします。



1.6.3 CPUにヒートシンクとファンを取り付ける

AMD Athlon™ 64、AMD Athlon™ 64FX、AMD Athlon™ 64 X2 プロセッサには、専用のヒートシンクとファンを使用してください。十分な散熱効果とパフォーマンスが得られません。



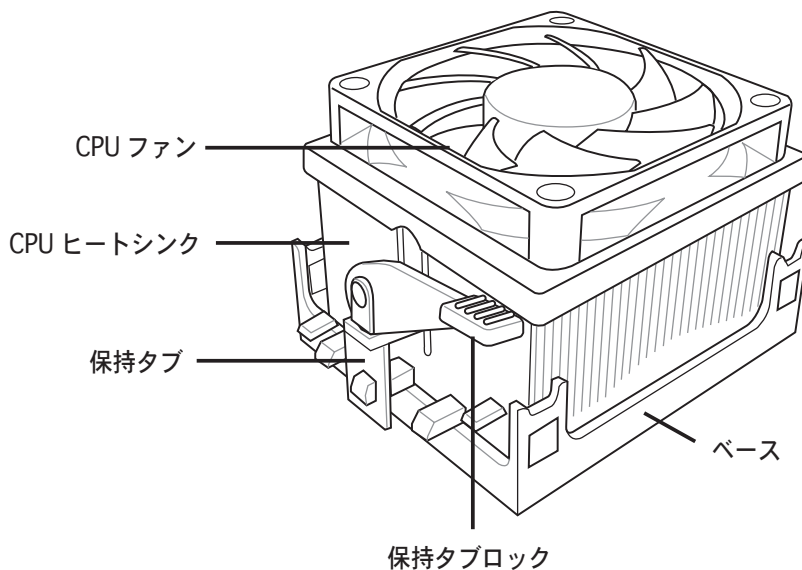
必ず専用のヒートシンクとファンを使用してください。

ヒートシンクとファンの取り付け手順

1. 取り付けた CPU の上にヒートシンクを置き、保持タブと位置を合わせます。

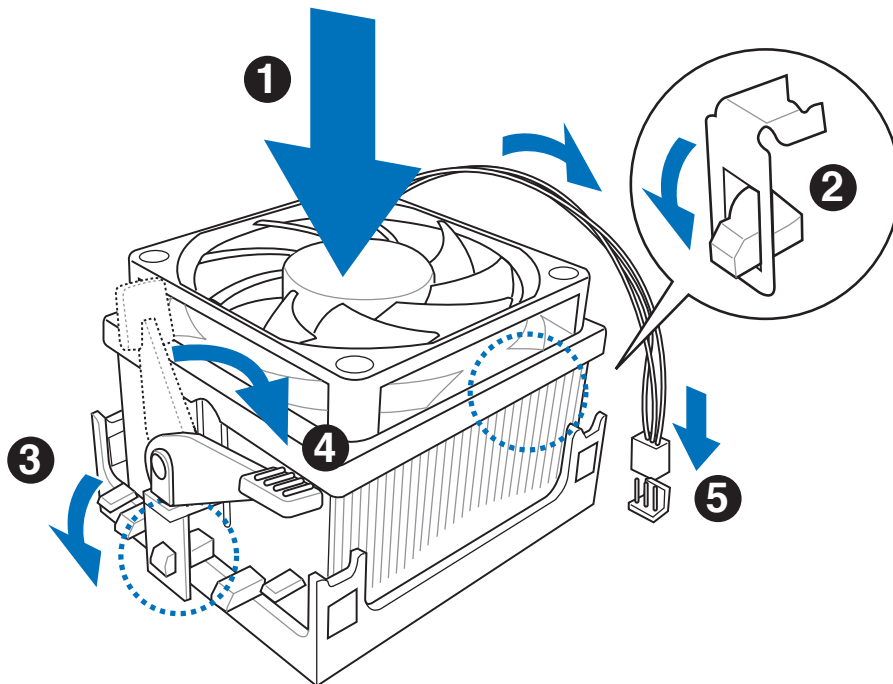


-
- ・ ベースは既にマザーボードに取り付けられています。
 - ・ ベースを取り外す必要はありません。
 - ・ CPU ヒートシンクとファンを別々にご購入の場合は、サーマルインターフェースがCPU、ヒートシンク、ファンに対応しているか、事前に必ず確認してください。
-



ご購入の箱入りCPU ヒートシンクとファンにはCPU、ファン、ヒートシンク用の取り付け説明書が付属されています。このセクションの説明とCPUドキュメンテーションに相違点があった場合は、本書の手順に従ってください。

2. 保持タブの一方をベースにかぶせます。

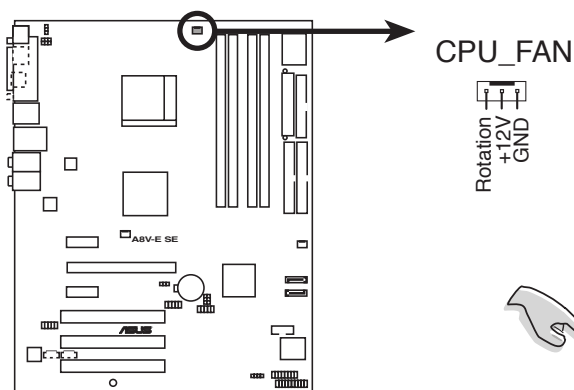


3. 保持タブのもう一方を(保持タブブロックに近い方) ベースにはめます。音がするまで、しっかりはめてください。



ヒートシンクとファンがベースにしっかりはまっていることを確認してください。はまっていないと、保持タブが所定の位置に固定されません。

4. 保持タブブロックを押し下げ、ヒートシンクとファンをベースに固定します。
5. ヒートシンクとファンを固定したら、CPU ファンケーブルを CPU_FAN というラベルの付いたマザーボード上のコネクタに接続します。



A8V-E SE CPU Fan connector



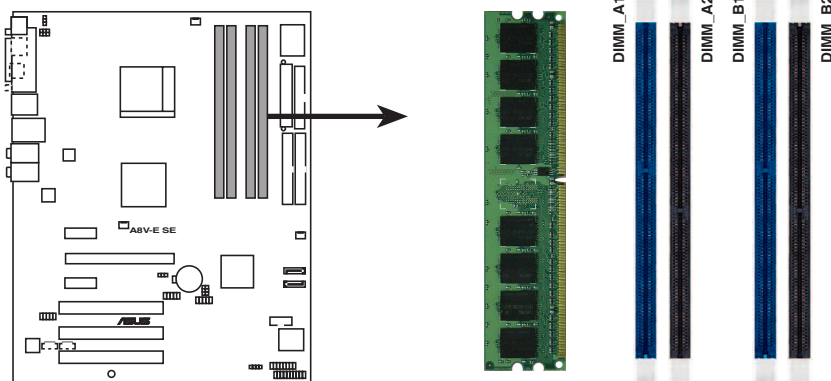
CPUファンコネクタを接続するのを忘れないでください。ハードウェアのモニタリングエラーが発生することがあります。

1.7 システムメモリ

1.7.1 概要

マザーボードには、4つの184ピンダブルデータレート (DDR) デュアルインラインメモリスロットが搭載されています。

次の図は、スロットの場所を示しています。



A8V-E SE 184-pin DDR DIMM sockets

チャンネル	スロット
Channel A	メモリ_A1 と メモリ_A2
Channel B	メモリ_B1 と メモリ_B2

1.7.2 メモリ構成

メモリは、以下の構成で、64MB、128MB、256 MB、512 MB、1 GB の DDR に対応した Non ECC Unbuffered DIMM をメモリスロットに取り付けることができます。



- デュアルチャンネルを使用するには、各チャンネルに取り付けるメモリの総容量は同じでなければなりません。(DIMM_A1 + DIMM_A2 = DIMM_B1 + DIMM_B2)
- 同じ CAS レイテンシを持つメモリを取り付けてください。また、メモリは、同じベンダーからお求めになることをお勧めします。DDR メモリの QVL (Qualified Vender List : 推奨ベンダーリスト) は次のページに記載しました。
- チップセットのリソース割り当ての制限により、1 GB の DDR 2 メモリを 4 枚取り付けているとき、システムは 4 GB 以下のシステムメモリしか認識しないことがあります。
- 本製品は 128MB のメモリ、ダブルサイドで 16 個のメモリチップを搭載したメモリをサポートしていません。
- CPU の制限のため、シングルチャンネルメモリ構成の際は、チャンネル B スロットに取り付けてください。

推奨メモリ構成

モード		スロット			
		メモリ_A1	メモリ_A2	メモリ_B1	メモリ_B2
シングルチャンネル	(1)	—	—	装着済	—
デュアルチャンネル*	(1)	装着済	—	装着済	—
	(2)	装着済	装着済	装着済	装着済

* 同一の DDR メモリをペアで使用。

* デュアルチャンネル構成には (3)、以下のいずれかの構成が可能です。

- ・ 同一のメモリを全てのスロット ORに取り付ける。
- ・ 同一のメモリー組をメモリ_A1 とメモリ_B1に取り付ける (青いスロット)。

DDR400 QVL (推奨ベンダーリスト)

サイズ	ベンダー	モデル	ブランド	サイド	コンポーネント	メモリサポート		
						A	B	C
256MB	KINGSTON	KVR400X64C3A/256	Hynix	SS	HY5DU56822BT-D43	•	•	•
512MB	KINGSTON	KVR400X64C3A/512	Hynix	DS	HY5DU56822BT-D43	•	•	
512MB	KINGSTON	KVR400X72C3A/512	Mosel	DS	V58C2256804SAT5(ECC)	•	•	
256MB	KINGSTON	KVR400X64C3A/256	Infineon	SS	HYB25D256800BT-5B	•	•	•
512MB	KINGSTON	KVR400X64C3A/512	Infineon	DS	HYB25D256809BT-5B	•		
256MB	KINGSTON	KVR400X64C3A/256	KINGSTON	SS	D3208DL2T-5	•	•	•
512MB	KINGSTON	KVR400X64C3A/512	KINGSTON	DS	D328DIB-50	•		
1024MB	KINGSTON	HYB25D512800BE-5B	N/A	DS	KVR400X64C3A/1G	•		
256MB	SAMSUNG	M381L3223ETM-CCC	SAMSUNG	SS	K4H560838E-TCCC(ECC)	•	•	•
512MB	SAMSUNG	M381L6423ETM-CCC	SAMSUNG	DS	K4H560838E-TCCC(ECC)	•	•	•
256MB	SAMSUNG	M368L3223ETM-CCC	SAMSUNG	SS	K4H560838E-TCCC	•	•	•
256MB	SAMSUNG	M368L3223FTN-CCC	SAMSUNG	SS	K4H560838F-TCCC	•	•	•
512MB	SAMSUNG	M368L6423FTN-CCC	SAMSUNG	DS	K4H560838F-TCCC	•	•	
512MB	SAMSUNG	M368L6523BTM-CCC	SAMSUNG	SS	K4H510838B-TCCC	•	•	•
256MB	MICRON	MT8VDDT3264AG-40BCB	MICRON	SS	MT46V32M8TG-5BC	•	•	•
512MB	MICRON	MT16VDDT6464AG-40BCB	MICRON	DS	MT46V32M8TG-5BC	•	•	
256MB	Infineon	HYS64D32300HU-5-C	Infineon	SS	HYB25D256800CE-5C	•	•	•
512MB	Infineon	HYS64D64320HU-5-C	Infineon	DS	HYB25D256800CE-5C	•		
256MB	CORSAIR	CMX256A-3200C2PT	Winbond	SS	W942508BH-5	•		
512MB	CORSAIR	VS512MB400	VALUE seLecT	DS	VS32M8-5	•		
1024MB	CORSAIR	TWINX2048-3200C2	N/A	DS	N/A	•		
256MB	Hynix	HYMD232645D8J-D43	Hynix	SS	HY5DU56822DT-D43	•	•	•
512MB	Hynix	HYMD264646D8J-D43	Hynix	DS	HY5DU56822DT-D43	•	•	
256MB	GEIL	GE2563200B	GEIL	SS	GL3LC32G88TG-5A	•	•	•
256MB	GEIL	GD3200-256V	GEIL	SS	GLIL DDR 32M8	•		
512MB	GEIL	GD3200-512V	GEIL	DS	GLIL DDR 32M8	•		
256MB	TwinMOS	M2G9I08AIATT9F081AADT	TwinMOS	SS	TMD7608F8E50D	•	•	•
256MB	TwinMOS	M2G9I08A8ATT9F081AADT	TwinMOS	SS	TMD7608F8E50D	•	•	
512MB	TwinMOS	M2G9J16A8ATT9F081AADT	TwinMOS	DS	TMD7608F8E50D	•		

(次のページへ)

DDR400 DDR QVL (推奨ベンダーリスト)

サイズ	ベンダー	モデル	ブランド	サイド	コンポーネント	メモリスポート		
						A	B	C
256MB	Transcend	TS32MLD64V4F3	SAMSUNG	SS	K4H560838F-TCCC	•	•	•
512MB	Transcend	TS64MLD64V4F3	SAMSUNG	DS	K4H560838F-TCCC	•		
1024MB	Transcend	TS128MLD64V4J	SAMSUNG	DS	K4H510838B-TCCC	•		
512MB	Transcend	TS64MLD64V4F3	Mosel	DS	V58C2256804SAT5B	•		
256MB	Transcend	TS32MLD64V4F3	SAMSUNG	SS	K4H560838E-TCCC	•	•	•
256MB	Apacer	77.10636.33G	Infineon	SS	HYB25D256800CE-5C	•		•
512MB	Apacer	77.10736.33G	Infineon	DS	HYB25D256800CE-5C	•		
256MB	Apacer	77.10639.60G	ProMOS	SS	V58C2256804SCT5B	•		•
512MB	Apacer	77.10739.60G	ProMOS	DS	V58C2256804SCT5B	•		
512MB	A DATA	MDOSS6F3H41Y0N1E0Z	SAMSUNG	DS	K4H560838F-TCCC	•		
256MB	A DATA	MDOHY6F3G31Y0N1E0Z	Hynix	SS	HY5DU56822CT-D43	•	•	•
256MB	A DATA	MDOAD5F3G31Y0D1E02	N/A	SS	ADD8608A8A-5B		•	•
512MB	A DATA	MDOAD5F3H41Y0D1E02	N/A	DS	ADD8608A8A-5B	•		
256MB	Winbond	W9425GCDB-5	Winbond	SS	W942508CH-5			•
512MB	Winbond	W9451GCDB-5	Winbond	DS	W942508CH-5	•		
256MB	KINGMAX	MPXB62D-38KT3R	N/A	SS	KDL388P4LA-50	•		•
512MB	KINGMAX	MPXC22D-38KT3R	N/A	DS	KDL388P4LA-50	•		
512MB	ATP	AG64L64T8SQC4S	SAMSUNG	DS	K4H560838D-TCC4	•		
1024MB	ATP	AG28L64T8SMC4M	MICRON	DS	MT46V64M4TG-5BC	•		
256MB	NANYA	NT256D64S88C0G-5T	N/A	SS	NT5DS32M8CT-5T	•	•	•
512MB	NANYA	NT512D64S8HC0G-5T	N/A	DS	NT5DS32M8CT-5T	•		
256MB	BRAIN POWER	B6U808-256M-SAM-400	SAMSUNG	SS	K4H560838D-TCC4	•		
256MB	ProMOS	V826632K24SCTG-D0	N/A	SS	V58C2256804SCT5B	•		•
512MB	ProMOS	V826664K24SCTG-D0	N/A	DS	V58C2256804SCT5B	•		
256MB	Deutron	A8C53T-5B1T	PSC	SS	A2S56D30CTP	•	•	•
512MB	Deutron	AL6D8C53T-5B1T	PSC	DS	A2S56D30CTP	•		
256MB	Novax	96M425653CE-40TB6	CEON	SS	C2S56D30TP-5			•
512MB	Novax	96M451253CE-40TB6	CEON	DS	C2S56D30TP-5	•		

サイド: SS - シングルサイド DS - ダブルサイド

メモリスポート

A - シングルチャンネルメモリ構成で、1枚のモジュールをサポート。

B - デュアルチャンネルメモリで、2枚のモジュールをサポート。

C - デュアルチャンネルメモリ構成で、4枚のモジュールをサポート。



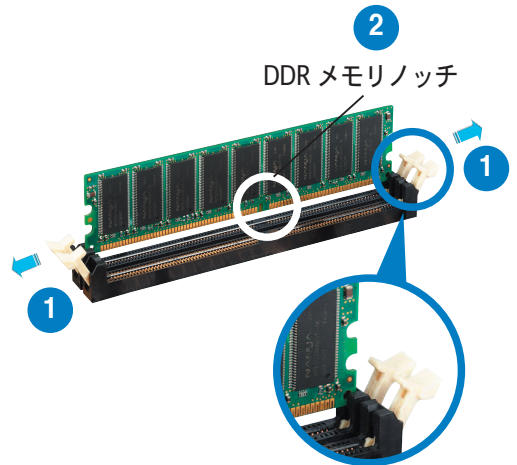
最新のQVLは、ASUS のWeb サイト(www.asus.co.jp) をご覧ください。

1.7.3 メモリを取り付ける



メモリや、その他のシステムコンポーネントを追加、または取り外す前に、コンピュータの電源プラグを抜いてください。プラグを差し込んだまま作業すると、マザーボードとコンポーネントが破損する原因となります。

1. 保持クリップを外側に押して、メモリスロットのロックを解除します。
2. メモリのノッチがスロットの切れ目に一致するように、メモリをスロットに合わせます。

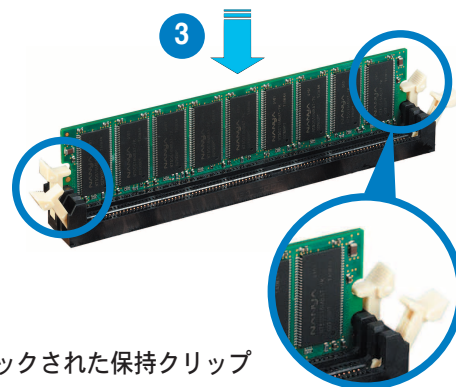


ロック解除された保持クリップ



DDR メモリは取り付ける向きがあります。間違った向きでメモリを無理にソケットに差し込むと、メモリが損傷する原因となります。

3. 保持クリップが所定の場所に戻りメモリが正しく取り付けられるまで、メモリをスロットにしっかり押し込みます。

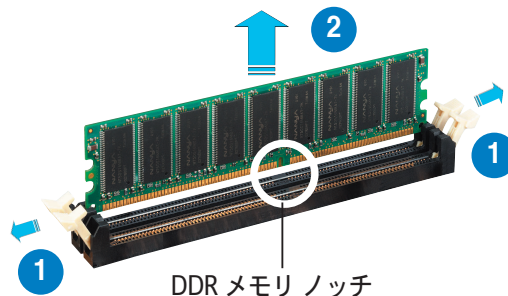


ロックされた保持クリップ

1.7.4 メモリを取り外す

手順

1. 保持クリップを外側に同時に押してメモリのロックを解除します。



DDR メモリ ノッチ



保持クリップを押しているとき、指でメモリを軽く引っぺがります。無理な力をかけてメモリを取り外すとメモリが破損する恐れがあります。

2. スロットからメモリを取り外します。

2.5 拡張スロット

拡張カードを取り付ける場合は、このページに書かれている拡張スロットに関する説明をお読みください。



拡張カードを追加したり取り外したりする前に、電源コードを抜いていることを確認してください。電源コードを接続したまま作業をすると、負傷をしたり、マザーボードコンポーネントが損傷したりする恐れがあります。



PCI Express x16 カードを取り付ける前に、メモリを取り付けることをお勧めします。

1.8.1 拡張カードを取り付ける

手順

1. 拡張カードを取り付ける前に、拡張カードに付属するマニュアルを読み、カードに必要なハードウェアの設定を行ってください。
2. コンピュータのケースを開けます。
3. カードを取り付けるスロットのブラケットを取り外します。ネジは後で使用するので、大切に保管してください。
4. カードの端子部分をスロットに合わせ、カードがスロットに完全に固定されるまでしっかり押します。
5. カードをネジでシャーシに固定します。
6. ケースを元に戻します。

1.8.2 拡張カードを設定する

拡張カードを取り付けた後、ソフトウェアの設定を行い拡張カードを使用できるようにします。

1. システムの電源をオンにし、必要であれば BIOS の設定を変更します。BIOS の設定に関する詳細は、Chapter 2 をご覧ください。
2. IRQ（割り込み要求）番号をカードに合わせます。次ページの表を参照してください。
3. 拡張カード用のソフトウェアドライバをインストールします。

1.8.3 割り込み割り当て

標準の割り込み割り当て

IRQ	優先順位	標準機能
0	1	システムタイマー
1	2	キーボードコントローラ
2	—	IRQ#9 にリダイレクト
3	11	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
4	12	通信ポート (COM1)*
5	13	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
6	14	フロッピーディスクコントローラ
7	15	プリンタポート (LPT1)*
8	3	システム CMOS/リアルタイムクロック
9	4	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
10	5	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
11	6	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
12	7	PS/2 互換マウスポート*
13	8	数値データプロセッサ
14	9	プライマリ IDE チャンネル
15	10	セカンダリ IDE チャンネル

* 上の IRQ は通常、ISA または PCI デバイスで使用されています。

割り込み割り当て

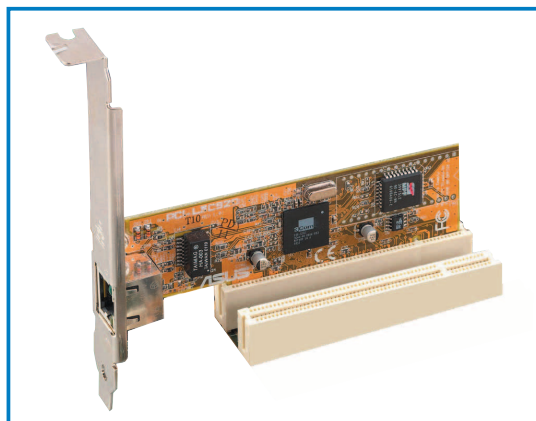
	A	B	C	D	E	F	G	H
PCI スロット 1	共有	—	—	—	—	—	—	—
PCI スロット 2	—	共有	—	—	—	—	—	—
PCI スロット 3	—	—	共有	—	—	—	—	—
PCI E x1 スロット 1	共有	—	—	—	—	—	—	—
PCI E x1 スロット 2	共有	—	—	—	—	—	—	—
PCI E x16 スロット	共有	—	—	—	—	—	—	—
オンボード USB コントローラ 1	共有	—	—	—	—	—	—	—
オンボード USB コントローラ 2	共有	—	—	—	—	—	—	—
オンボード USB コントローラ 3	—	共有	—	—	—	—	—	—
オンボード USB コントローラ 4	—	共有	—	—	—	—	—	—
オンボード USB 2.0 コントローラ	—	—	共有	—	—	—	—	—
オンボード LAN	共有	—	—	—	—	—	—	—



PCI カードをシェアスロットに使用する際は、ドライバが、Share IRQをサポートすること、または、カードが IRQ 割り当てを必要としないこと、を確認してください。2つの PCI グループが対立し、システムが不安定になりカードが動作しなくなります。

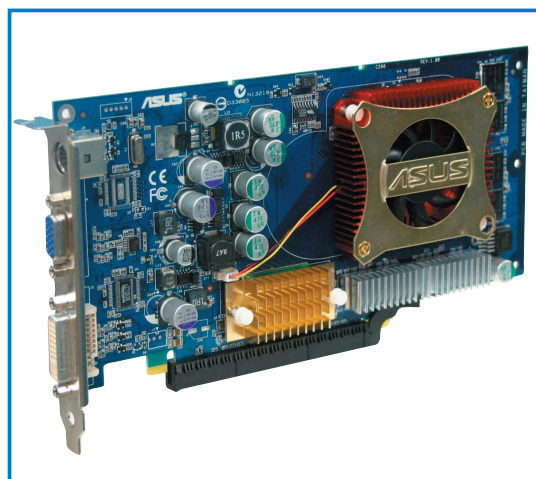
1.8.4 PCI スロット

PCI スロットは LAN カード、SCSI カード、USB カード等の PCI 仕様対応のカードをサポートします。写真は LAN カードを取り付けたものです。



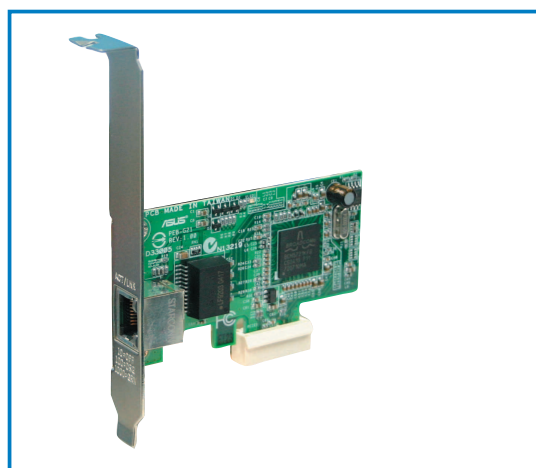
1.8.5 PCI Express x16 スロット

本製品は PCI Express x16 スロットを 2 枚搭載しています。PCI Express 仕様に準拠する PCI Express x16 グラフィックカードをサポートします。写真はビデオカードを 1 枚 PCI Express x16 スロットに取り付けたものです。



1.8.6 PCI Express x1 スロット

本製品は PCI Express x1 ネットワークカード、SCSI カード、および PCI Express 仕様に準拠するその他のカードをサポートします。写真は、ネットワークカードを PCI Express x1 スロットに取り付けたものです。



1.9 ジャンパ

1. RTC RAMの消去(CLRTC)

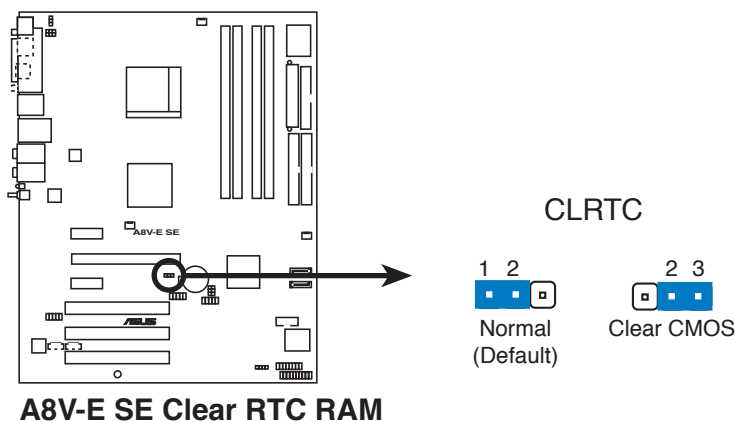
このジャンパは、CMOSのリアルタイムクロック(RTC) RAMをクリアするものです。CMOS RTC RAMのデータを消去することにより、日、時、およびシステム設定パラメータをクリアできます。システムパスワードなどのシステム情報を含むCMOS RAMデータの保持は、マザーボード上のボタン電池により行われています。

RTC RAMを消去する手順

1. コンピュータの電源をオフにし電源コードをコンセントから抜きます。
2. マザーボード上のボタン電池を取り外します。
3. CLRTCのピン1-2にあるジャンパキャップをピン2-3に移動させます。5~10秒間そのままにして、再びピン1-2にキャップを戻します。
4. 電池を取り付けます。
5. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。
6. 起動プロセスの間キーを押し、BIOS設定に入ったらデータを再入力します。



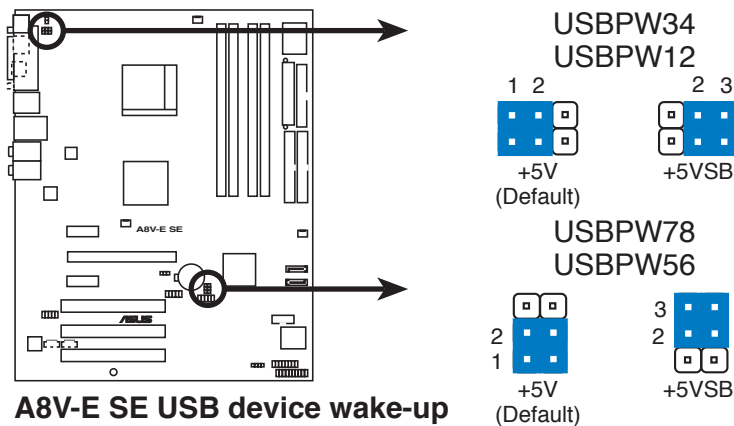
RTC RAM をクリアしている場合を除き、CLRTCジャンパのキャップは取り外さないでください。システムの起動エラーの原因となります。



オーバークロックによりシステムがハングアップした場合は、RTC RAM をクリアする必要はありません。オーバークロックによるシステムエラーの場合、C.P.R.(CPU Parameter Recall)機能を使用してください。システムを自動的に停止して再起動すると、BIOS はパラメータ設定をデフォルト値にリセットします。

2. USB デバイス ウェイクアップ (3ピン USBPW12、USBPW34、USBPW56、USBPW78)

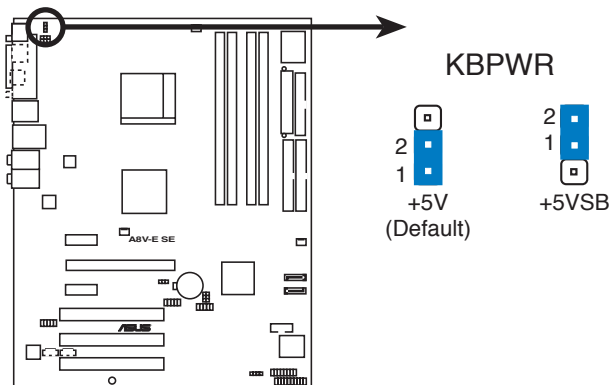
USB デバイスを利用して、S1 スリープモード(CPU 停止、DRAM リフレッシュ、低電力モードでのシステム稼働) から復帰するには、+5V に設定します。S3 と S4 スリープモード (CPUへの電源供給がゼロの状態、スローリフレッシュ状態のDRAM、電力削減モード) から復帰するには、+5VSB に設定します。



- USB デバイスウェイクアップ機能には、各 USB ポート用の +5VSB リード線に 500mA の電流供給ができる電源装置が必要です。それ以外ではシステムは復帰しません。
- 総消費電流は、通常の条件でもスリープモードでも、電源装置の能力 (+5VSB) を超過してはいけません。

3. キーボード電力(3ピン KBPWR1)

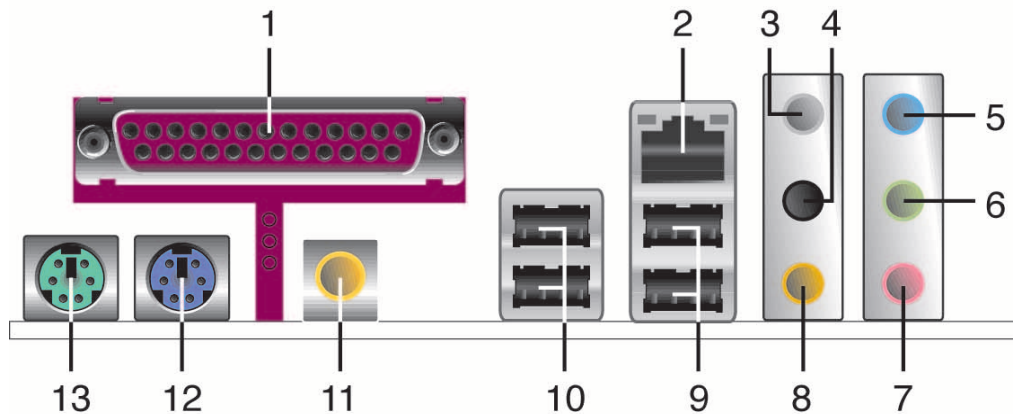
キーボードウェイクアップ機能の有効/無効を切り替えます。デフォルトは 2-3 です。キーボードを使ってスリープモードからの復帰をしない場合は、ジャンパを 1-2 (+5V) に設定してください。この機能には、最低 1A を +5VSB リード線に供給できる ATX 電源が必要です。また BIOS でもそれに関連する設定が必要です。



A8V-E SE Keyboard power setting

1.10 コネクタ

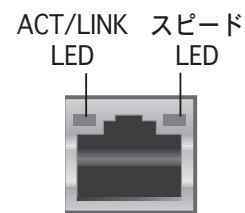
1.10.1 リアパネルコネクタ



1. パラレルポート：この25ピンポートはパラレルプリンタやスキャナなどのデバイスを接続します。
2. LAN (RJ-45) ポート：ローカルエリアネットワーク (LAN) と Gigabit Ethernet 接続ができます。LAN ポートLEDの表示については、下の表を参考にしてください。

LANポートLED

ACT/LINK LED		スピード LED	
状態	説明	状態	説明
オフ	リンクなし	オフ	10 Mbps
グリーン	リンク確立	オレンジ	100 Mbps
点滅	通信中	グリーン	1 Gbps



3. リアスピーカー出力 (グレー)：このポートは4チャンネル、6チャンネル、8チャンネルのオーディオ構成で使用します。
4. サイドスピーカー出力ポート(ブラック)：8チャンネルオーディオ構成でサイドスピーカーを接続します。
5. ライン入力ポート(ライトブルー)：テープ、CD、DVDプレーヤー、またはその他のオーディオソースを接続します。
6. ライン出力ポート(ライム)：ヘッドフォンやスピーカーを接続します。4チャンネル、6チャンネル、8チャンネルの出力設定のときは、このポートはフロントスピーカー出力になります。
7. マイクポート (ピンク)：マイクを接続します。
8. センター/サブウーファーポート(オレンジ)：センター/サブウーファーを接続します。



2、4、6、8チャンネル構成時のオーディオポートの機能については、次項のオーディオ構成表を参考にしてください。

オーディオ構成

ポート	2チャンネル (ヘッドフォン)	4チャンネル	6チャンネル	8チャンネル
ライトブルー	ライン入力	ライン入力	ライン入力	ライン入力
ライム	ライン出力	フロントスピーカー出力	フロントスピーカー出力	フロントスピーカー出力
ピンク	マイク入力	マイク入力	マイク入力	マイク入力
グレー	—	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力
ブラック	—	—	—	サイドスピーカー出力
オレンジ	—	—	センター/サブウーファー	センター/サブウーファー

9. USB 2.0ポート3と4 : USB 2.0デバイスを接続できます。
10. USB 2.0ポート1と2 : USB 2.0デバイスを接続できます。
11. 同軸 S/P DIF 出力ポート : 同軸S/P DIFケーブルを介して外部オーディオ出力デバイスを接続します。
12. PS/2キーボードポート(パープル) : PS/2キーボード用です。
13. PS/2マウスポート(グリーン) : PS/2マウス用です。

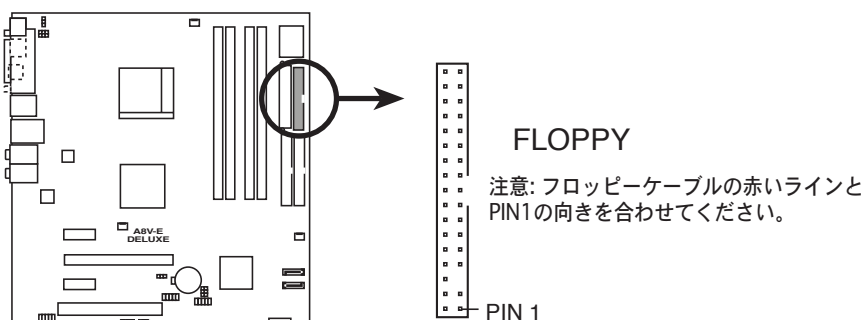
1.10.2 内部コネクタ

1. フロッピーディスクドライブコネクタ(34-1ピン FLOPPY)

付属のフロッピーディスクドライブ(FDD)ケーブル用コネクタです。ケーブルの一方をこのコネクタに挿入し、もう一方をフロッピーディスクドライブの背面に接続します。



誤ってケーブルを接続しないように、コネクタのピン5は取り外されています。



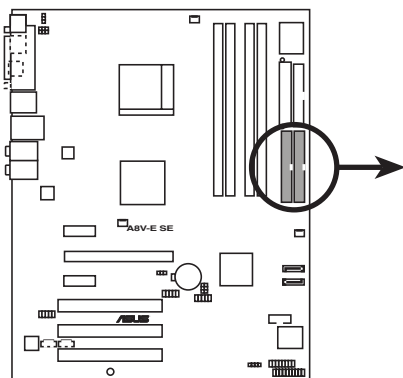
A8V-E SE Floppy disk drive connector

2. IDE コネクタ (40-1 ピン PRI_IDE、SEC_IDE)

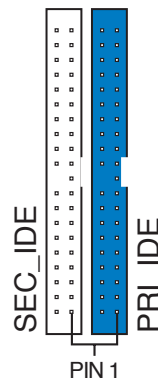
Ultra ATA/133/100/66 ケーブル用です。Ultra ATA/133/100/66 ケーブルには次の3つのコネクタがあります。マザーボードのプライマリ IDE コネクタ (ブルー)、Ultra ATA/133/100/66 IDE スレーブドライブ(光学ドライブ/HDD)用 (ブラック)、Ultra ATA/133/100/66 IDE マスターデバイス(ハードディスクドライブ)用 (グレー) です。光学ドライブと IDE HDDを取り付けた場合、光学ドライブをスレーブデバイスになるようにジャンパ設定をしてください。ジャンパ設定についての詳細は、光学ドライブまたは HDD 関連ドキュメントを参照してください。



- ・ 誤ってケーブルを接続しないようにコネクタのピン20は取り外されています。
- ・ Ultra ATA/133/100/66 IDEデバイスの場合、80ピンの IDEケーブルを使用します。

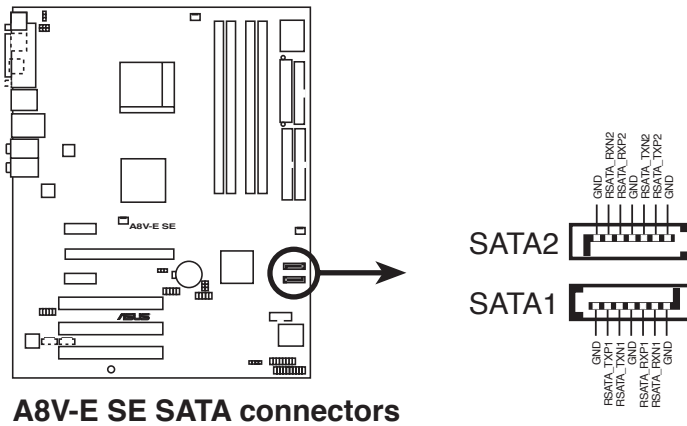


A8V-E SE IDE connectors



注意: IDE ケーブルの赤いマークとPIN 1の向きを合わせてください。

3. Serial ATA コネクタ (7ピンSATA1、SATA2)
Serial ATA HDD のSerial ATA信号ケーブル用コネクタです。



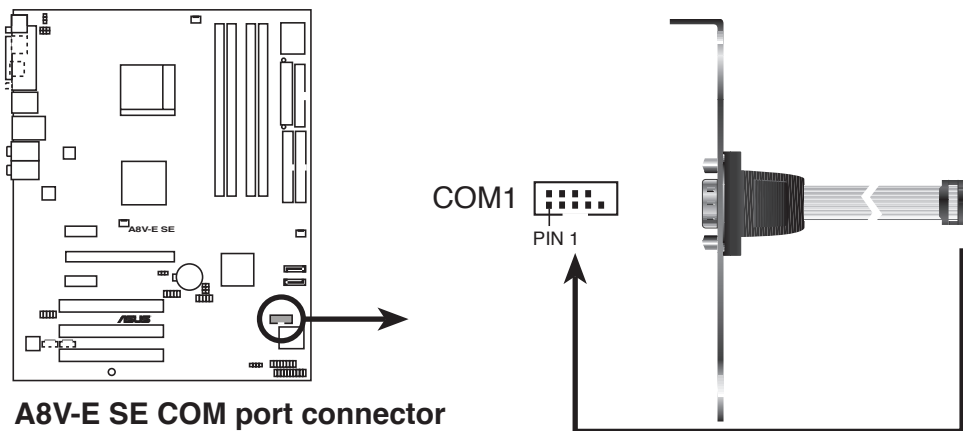
A8V-E SE SATA connectors



注記 (Serial ATA)

- Serial ATA RAID 機能は(RAID 0、RAID 1、JBOD)、Windows® 2000/XP 環境でのみ利用できます。
- Serial ATA HDD を使用する場合は、OSにWindows® 2000 Service Pack 4、または Windows® XP Service Pack 1 以降のバージョンをインストールしてください。

4. シリアルポートコネクタ(10-1ピン COM1)
シリアル(COM)ポート用コネクタです。シリアルポートのモジュールケーブルを接続します。



A8V-E SE COM port connector



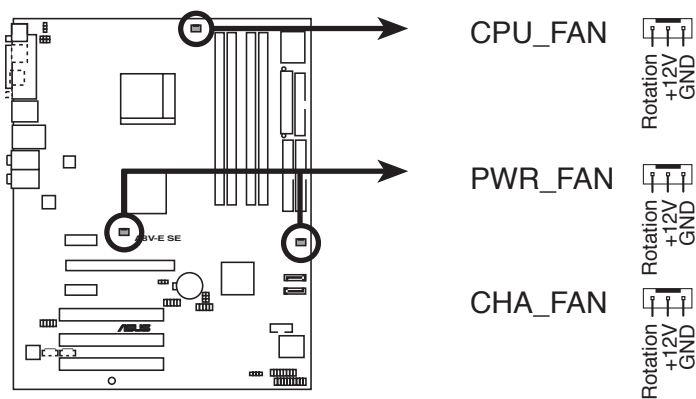
シリアルポート用モジュールは別売りとなっています。

5. CPUファン、ケースファン、電源ファンコネクタ(3ピンCPU_FAN、3ピンCHA_FAN1、3ピンPWR_FAN)

ファンコネクタは+12Vで、350 mA ~ 2000 mA (最高24 W)または、合計1 A ~ 3.48 A (最高 41.76 W)の冷却ファンをサポートします。ファンケーブルをマザーボードのファンコネクタに接続し、各ケーブルの黒いワイヤがコネクタのアースピンに接続されていることを確認します。



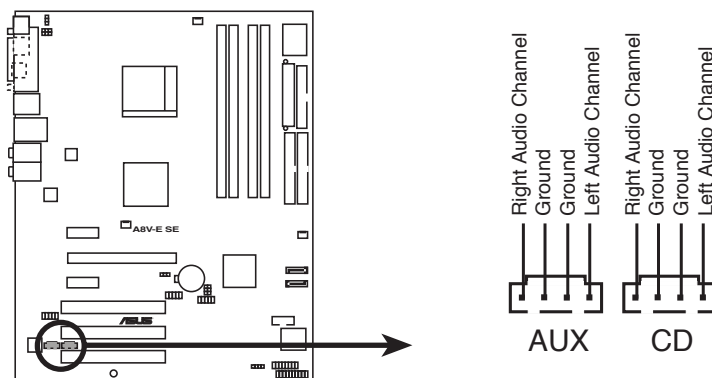
ファンケーブルをファンコネクタに必ず接続してください。ケース内に十分な空気の流れがないと、マザーボードコンポーネントが破損する恐れがあります。また、これはジャンピンではありません。ファンコネクタにジャンパキャップを取り付けないでください。



A8V-E SE Fan connectors

6. 内部オーディオコネクタ (4ピンCD、AUX)

サウンドソース (CDロム、TV-チューナー、MPEG カードなど) からステレオオーディオ入力を受け取ります。



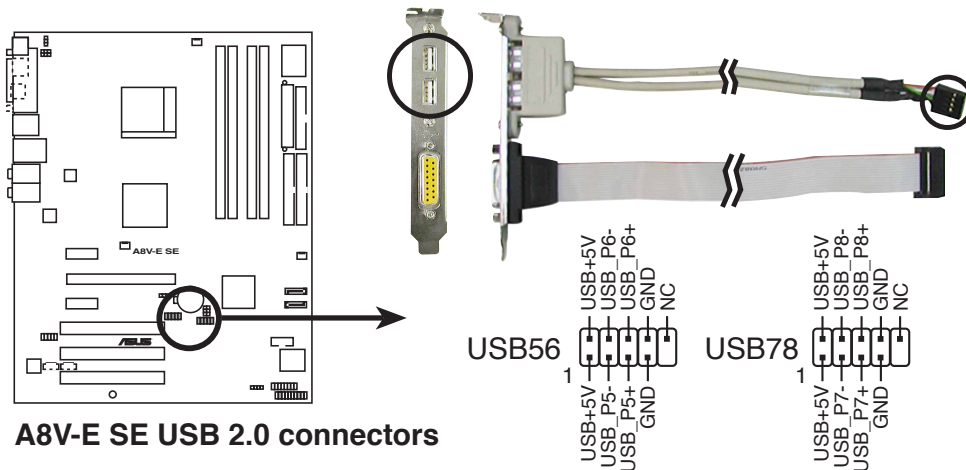
A8V-E SE Internal audio connectors

7. USBコネクタ(10-1ピン USB56、USB78)

USB 2.0 ポート用のコネクタです。別売りのUSBモジュールケーブルをこれらのコネクタに接続します。このコネクタは最大 480 Mbps の接続速度を持つ USB 2.0 仕様に準拠しています。



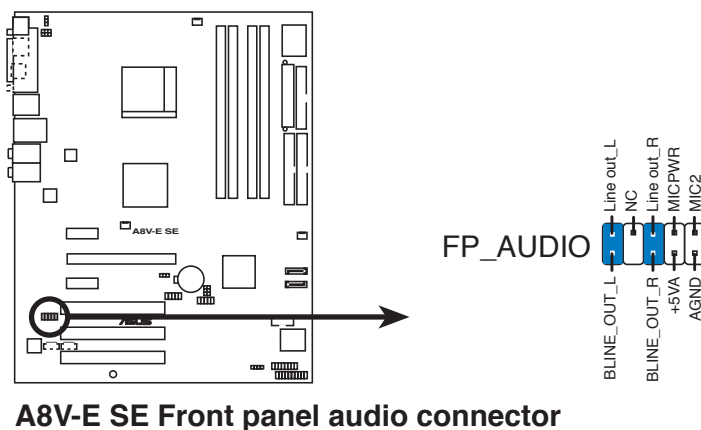
1394 ケーブルを USB コネクタに接続しないでください。マザーボードが破損する原因となります。



USB/GAME ポート用モジュールは別売りとなっています。

8. フロントパネルオーディオコネクタ (10-1ピンFP_AUDIO)

ケースのフロントパネルオーディオI/Oモジュール用コネクタで、HDオーディオ及びAC' 97オーディオをサポートしています。オーディオI/Oモジュールケーブルの一方をこのコネクタに接続します。

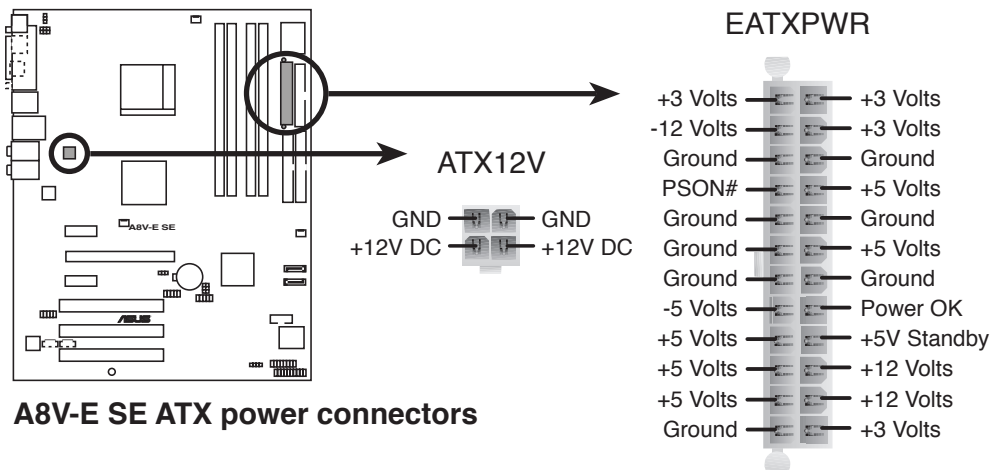


9. ATX電源コネクタ(24ピン EATXPWR、4ピン ATX12V)

ATX電源プラグ用のコネクタです。電源プラグは正しい向きでのみ、取り付けられるように設計されています。正しい向きでしっかりと差し込んでください。

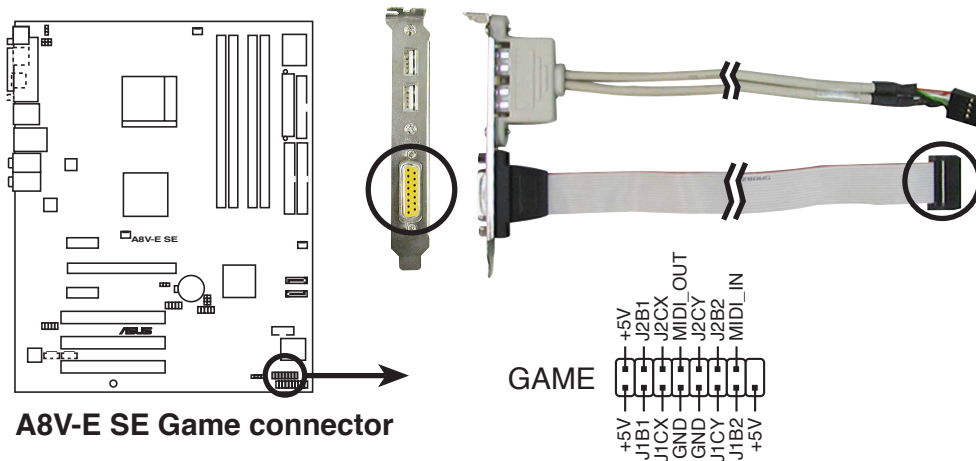


- システムの完全な構築のために、ATX 12 V Specification 2.0 (もしくはそれ以降)、また 350 W 以上の電源ユニットを使ってください。
- 4ピンの ATX12 V 電源プラグを接続しないとシステムは起動しません。
- 大量に電力を消費するデバイスを使用する場合は、高出力の電源ユニットの使用をお勧めします。電源ユニットの能力が不十分だと、システムが不安定になったり起動できなくなったりします。
- デバイスを追加する際も、高い出力を出す電源ユニットを使用してください。



10. GAME/MIDI ポートコネクタ (16-1ピン GAME)

GAME/MIDI ポート用コネクタです。USB/GAME モジュールケーブルを接続します。GAME/MIDI ポートはゲームのプレーの場合はジョイスティックやゲームパッドを、オーディオファイルの再生や編集の場合は MIDI デバイスを接続します。

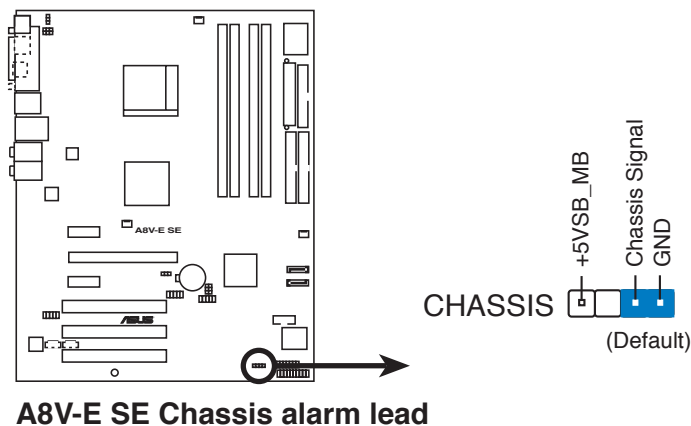


USB/GAME ポート用モジュールは別売りとなっています。

11. ケース開閉検出コネクタ(4-1ピン CHASSIS)

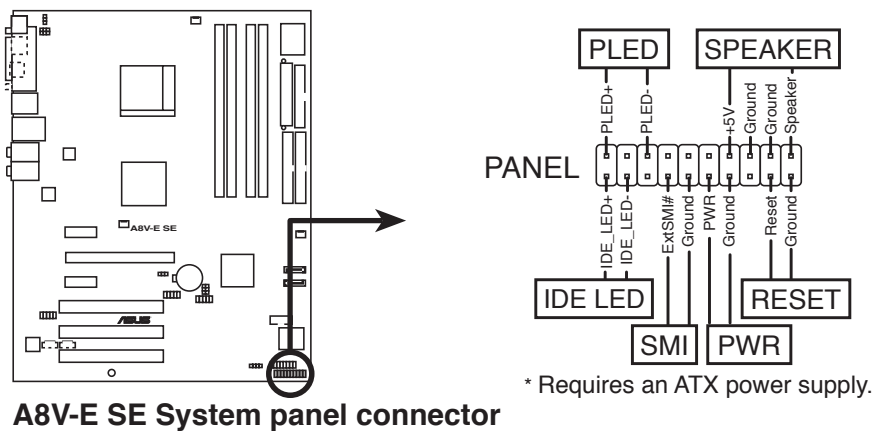
ケース開閉検出センサーまたはスイッチ用コネクタです。センサーまたはスイッチを接続してください。システムコンポーネントを取り外したり交換するときにケースを開けると、ケース開閉検出センサーまたはスイッチはこのコネクタに信号を送信します。信号はその後、ケース開閉検出イベントを発行します。

デフォルトでは、「Chassis Signal」と「GND」の間はジャンパキャップにより、ショートされています。ケース侵入検出機能を使用する場合にのみ、ジャンパを取り外してください。



12. システムパネルコネクタ (20ピン PANEL)

ケースに取り付けられた複数の機能をサポートします。



システムパネルコネクタは簡単に接続できるように色分けされています。詳細は次の説明をご覧ください。

- ・ システム電源LED (グリーン 3ピン PLED)
システム電源LED用です。ケース電源LEDケーブルを接続してください。システムの電源LEDはシステムの電源をオンになると点灯し、システムがスリープモードに入ると点滅します。
- ・ システム警告スピーカー(オレンジ 4ピン SPEAKER)
ケース取付システム警告スピーカー用です。スピーカーは、ビープ音で警告を發します。
- ・ ハードディスクドライブアクティビティ (レッド 2ピン IDE_LED)
HDDアクティビティLED用です。HDDアクティビティLEDケーブルを接続してください。IDE LEDは、データがHDDと読み書きを行っているときに点灯するか点滅します。
- ・ パワーボタン/ソフトオフボタン (イエロー 2ピン PWR)
システムの電源ボタン用です。電源ボタンを押すと、システムの電源がオンになります。また BIOSの設定によってはシステムをスリープモードまたはソフトオフモードにすることができます。システムがオンになっているときに電源スイッチを4秒以上押すと、システムの電源はオフになります。
- ・ リセットボタン(ブルー 2ピン RESET)
ケース取付リセットボタン用で、システムの電源をオフにせずにシステムを再起動します。

BIOS セットアップメニューでのシステム設定の変更方法。BIOS パラメータの詳細。

BIOS セットアップ

2.1 BIOS 更新

次のいずれかの方法で、マザーボードの BIOS の更新を行うことができます。

1. AwardBIOS Flash Utility (ブートフロッピーディスクを使用して、DOSモードでBIOSを更新)
2. ASUS CrashFree BIOS 2 (BIOSファイルがエラーを起こしたり破損したとき、ブートフロッピーディスクまたはサポートCDを使用して、BIOSを更新)
3. ASUS EZ Flash (ブートフロッピーディスクを使用して、DOSモードでBIOSを更新)
4. ASUS Update (Windows® 環境でBIOSを更新)

ユーティリティの詳細については、このページ以降の各説明を参照してください。



BIOS を復元できるように、オリジナルのマザーボード BIOS ファイルのコピーをブートフロッピーディスクにコピーしてください。ASUS Update または AwardBIOS Flashを使用して、BIOS のコピーを行います。

2.1.1 ブートフロッピーディスクを作成する

1. 次のいずれかの方法で、ブートフロッピーディスクを作成します。

DOS 環境

- a. ドライブに1.44MBのフロッピーディスクを挿入します。
- b. DOSプロンプトで、`format A:/s` を入力し、<Enter>を押します。

Windows® XP 環境

- a. 1.44 MBのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- b. Windows®のデスクトップからスタートをクリックし、マイコンピュータを選択します。
- c. 3.5 インチフロッピードライブアイコンを選択します。
- d. マウスを右クリックし、コンテキストメニューからフォーマットを選択します。3.5 インチフロッピーディスクのフォーマットウィンドウが表示されます。
- e. フォーマットオプションから、「MS-DOSの起動ディスクを作成する」を選択し、「開始」をクリックします。

Windows® 2000 環境

Windows® 2000での起動ディスクの作成手順

- a. フォーマット済みの、1.44 MB フロッピーディスクをドライブに挿入します。
- b. Windows® 2000 CD を光学ドライブに挿入します。

- c. 「スタート」をクリックし、ファイル名を指定して実行を選択します。
- d. オープンフィールドで、
D:\bootdisk\makeboot a:
と入力します。「D」は光学ドライブです。ご使用の環境によって異なります。
- e. <Enter>を押し、スクリーンの指示に従って続行します。

2. 更新を行うBIOSファイルをブートフロッピーディスクにコピーします。

2.1.2 BIOSファイルを更新する

AwardBIOS Flash Utilityを使用してBIOSファイルを更新する手順

1. ASUS Webサイト(www.asus.co.jp)にアクセスして、マザーボード用の最新のBIOS ファイルをダウンロードし、ファイル名を「A8V-E_SE.BIN」に変更しフロッピーディスクに保存してください。



更新したBIOSファイルのみをフロッピーディスクに保存してください。

2. 最新のBIOSファイルを保存したフロッピーディスクにサポートCDの Software folder から、AwardBIOS Flash Utility (awdfash.exe)をコピーしてください。
3. 2.1.1で作成したブートフロッピーディスクを使ってDOSモードでシステムを起動してください。
4. A:> が表示されたら、ブートフロッピーディスクを最新のBIOSファイルとAwardBIOS Flash Utilityの入ったディスクを入れてください。
5. プロンプトで「awdfash」と入力し、<Enter>を押します。AwardBIOS Flash Utility画面が表示されます。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.01
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For K8T890-8237-A8V-E-00      DATE: 09/10/2004
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: 

Message: Please input File Name!
```

6. 「File Name to Program」にBIOSのファイル名を入力し、<Enter>を押します。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.01
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For K8T890-8237-A8V-E-00      DATE: 09/10/2004
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: A8V-E_SE.BIN

Message: Do You Want To Save Bios (Y/N)
```

7. 現行のBIOSファイルをセーブするように指示が出たら、<N>を押すと、下の画面が表示されます。
8. フロッピーディスクのBIOSファイルが確認されると、BIOSの更新が開始されます。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.01
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For K8T890-8237-A8V-E-00      DATE: 09/10/2004
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: A8V-E_SE.BIN

Program Flashing Memory - OFFE00 OK

Write OK      No Update      Write Fail

Warning: Don't Turn Off Power Or Reset System!
```



BIOSの更新中にシステムの電源を切ったり、リセットしたりしないでください。

9. BIOSファイルの更新に成功したという内容のメッセージが表示されたら<F1>を押すと、システムが再起動します。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.01
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For K8T890-8237-A8V-E-00      DATE: 09/10/2004
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: A8V-E_SE.BIN

Flashing Complete
Press <F1> to Continue

Write OK      No Update      Write Fail

F1 Reset
```

2.1.3 現行のBIOS ファイルを保存する

AwardBIOS Flash Utilityを使ってマザーボードのBIOSファイルを保存します。
BIOSを更新する過程でBIOSファイルが壊れた場合に現行のものをロードします。

AwardBIOS Flash Utilityを使って現行のBIOSを保存する手順

1. 前セクションの1 から 6 の手順を行ってください。
2. BIOSファイルをセーブするように指示が出たら、<Y>を押すと、右の画面が表示されます。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.01
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For K8T890-8237-A8V-E-00      DATE: 09/10/2004
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: A8V-E_SE.BIN
Save current BIOS as:

Message:
```

3. 「Save current BIOS as」にBIOSのファイル名を入力し<Enter>を押してください。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.01
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For K8T890-8237-A8V-E-00      DATE: 09/10/2004
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: A8V-E_SE.BIN
Checksum: DAD6H
Save current BIOS as: old.bin

Message: Please Wait!
```

4. ユーティリティがBIOSファイルをフロッピーに保存すると、BIOS 更新の画面に戻ります。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.01
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For K8T890-8237-A8V-E-00      DATE: 09/10/2004
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: A8V-E_SE.BIN
Now Backup System BIOS to
File!

Message: Please Wait!
```

2.1.4 ASUS CrashFree BIOS 2 ユーティリティ

ASUS CrashFree BIOS 2 はBIOSの自動復元ツールで、BIOS更新時に障害を起こしたり破損したりした BIOS ファイルを復元します。破損した BIOS は、サポート CD、または BIOS ファイルを保存したフロッピーディスクで更新することができます。



このユーティリティを使用する前に、サポートCDまたは BIOS を保存したフロッピーディスクをお手元にご用意ください。

フロッピーディスクからBIOSを復元する

手順

1. システムの電源をオンにします。
2. BIOS ファイルを保存したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
3. 下のメッセージが表示され、フロッピーディスクの BIOS ファイルがチェックされます。

```
Award BootBlock BIOS v1.0
Copyright (c) 2000, Award Software, Inc.

BIOS ROM checksum error
Detecting IDE ATAPI device...
```

フロッピーディスクを検出すると、BIOS ファイルを自動的にチェックし、破損した BIOS ファイルを更新します。

```
Award BootBlock BIOS v1.0
Copyright (c) 2000, Award Software, Inc.

BIOS ROM checksum error
Detecting IDE ATAPI device...
Found CDROM, try to Boot from it... Pass
```



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンしたり、リセットしないでください。システム起動エラーの原因となります。

4. 更新プロセスが完了したら、システムを再起動してください。

フロッピーディスクからBIOSを復元する 手順

1. 光学ドライブからCDを取り出し、システムの電源をオンにします。
2. BIOS ファイルを保存したフロッピーディスクをドライブに入れます。
3. 次のメッセージが表示され、フロッピーディスクのBIOS ファイルを自動的にチェックします。

```
Award BootBlock BIOS v1.0
Copyright (c) 2000, Award Software, Inc.

BIOS ROM checksum error
Detecting IDE ATAPI device...
```

CDが検出されないと、フロッピーディスクドライブのBIOS ファイルを自動的にチェックし、破損した BIOS ファイルを更新します。

```
Award BootBlock BIOS v1.0
Copyright (c) 2000, Award Software, Inc.

BIOS ROM checksum error
Detecting IDE ATAPI device...
  Found CDROM, try to Boot from it... Fail

Detecting floppy drive A media...
```



BIOS を更新している間に、システムをシャットダウンしたり、リセットしたりしないでください。システムの起動エラーの原因となります。

4. 更新プロセスが完了したら、システムを再起動してください。



復元されたBIOS は、最新のBIOSではないことがあります。ASUS のWebサイト (www.asus.co.jp) から最新のものをダウンロードして更新を行ってください。

2.1.5 ASUS EZ Flash

ASUS EZ Flash は、ブートフロッピーディスクまたは DOS ベースユーティリティを使うことなく、BIOS を短時間で更新します。EZ Flash ユティリティは内蔵の BIOS チップです。システム起動時の自己診断テスト(POST)の間、<Alt> + <F2>を押すとEZ Flash を起動することができます。

EZ Flashを使用して BIOS を更新する手順

1. ASUS Webサイト(www.asus.co.jp)にアクセスして、マザーボード用の最新の BIOS ファイルをダウンロードします。
2. BIOS ファイルをフロッピーディスクに保存し、システムを再起動します。
3. POST の間に<Alt> + <F2>を押すと、次が表示されます。

```
Insert Disk then press Enter or ESC to continue POST
```

4. BIOS ファイルを保存したフロッピーディスクをドライブにいれ <Enter>を押すと右の画面が表示されます。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.01
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For NF-KC804-A8N-SLI-00      DATE: 11/18/2004
Flash Type - SST 49LF004A/B /3.3V

File Name to Program: _____

Message: Please wait...
```

5. BIOSファイルが検出されると自動的にBIOS を更新しシステムを再起動します。



BIOSの更新中にシステムの電源を切ったり、リセットしたりしないでください。

2.1.6 ASUS Update utility

ASUS Update は、Windows® 環境でマザーボードの BIOS が管理・保存・更新するユーティリティです。以下の機能が実行できます。

- ・ マザーボードの BIOS ファイルを保存する
- ・ インターネットから最新の BIOS ファイルをダウンロードする
- ・ 最新の BIOS ファイルに BIOS を更新する
- ・ インターネットから直接 BIOS を更新する
- ・ BIOS のバージョン情報を表示する

このユーティリティはマザーボードに付属しているサポート CD からインストールします。



ASUS Update でインターネットを使用した機能を使用するためには、インターネット接続が必要です。

ASUS Update をインストールする

手順

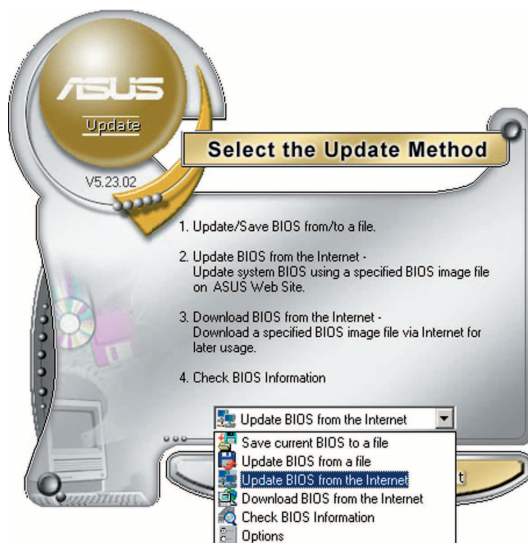
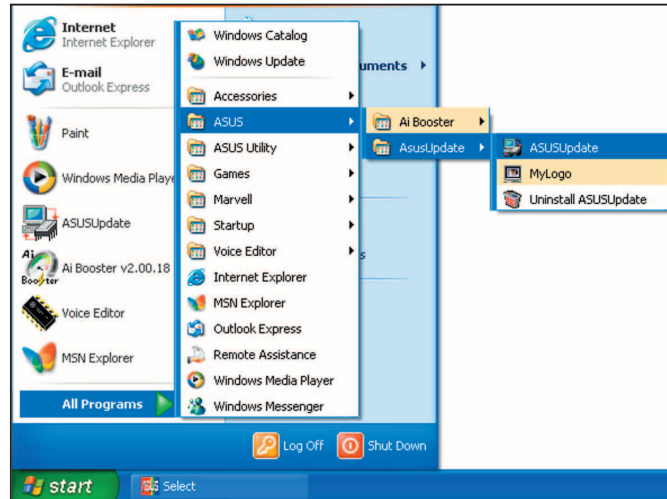
1. 光学ドライブにサポート CD をセットします。メニューが表示されます。
2. Utility タブをクリックし、ASUS Update VX.XX.XX. をクリックします。（ユーティリティのメニューについては、Chapter 3-4 をご覧ください）
3. ASUS Update ユーティリティがシステムにコピーされます。



このユーティリティを使用して BIOS を更新する前に、すべての Windows® アプリケーションを終了してください。

インターネットを通してBIOSを更新する 手順

1. スタート → プログラム → ASUS → ASUSUpdate → ASUSUpdate をクリックします。次にWindows® デスクトップから ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。

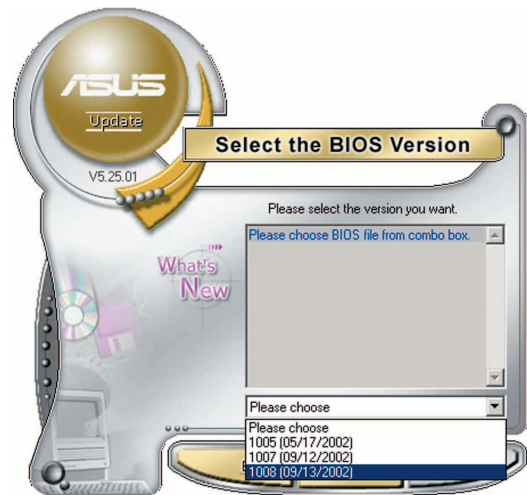


2. ドロップダウンメニューから「Update BIOS from the Internet」を選択し、「Next」をクリックします。



3. 最寄りの ASUS FTPサイトを選択するか、「Auto Select」をクリックし、「Next」をクリックします。

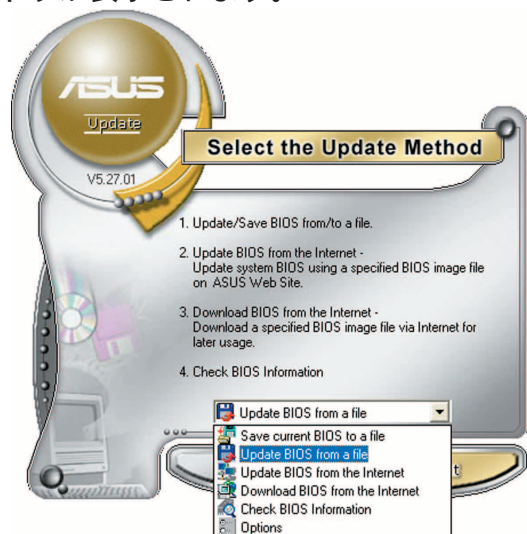
4. ダウンロードしたいBIOSバージョンを選択し、「Next」をクリックします。
5. 画面の指示に従って、更新プロセスを完了します。



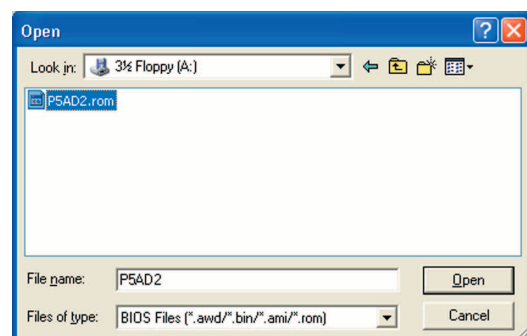
ASUS Update ユーティリティはインターネットから更新できます。すべての機能を利用できるように、常にユーティリティを更新してください。

BIOSファイルをからBIOSを更新する手順

1. スタート → プログラム → ASUS → ASUSUpdate → ASUSUpdate をクリックして、Windows® デスクトップから ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウンメニューから「Update BIOS from a file」を選択し、「Next」をクリックします。



3. Openダイアログから BIOSファイルを探し、「Open」をクリックします。
4. 画面の指示に従い、更新プロセスを完了します。



2.2 BIOS 設定プログラム

本マザーボードはプログラム可能なLPC(Low-Pin Count)チップを搭載しており、「2.1 BIOS の更新」で説明した付属ユーティリティを使用してBIOSの更新を行うことが可能です。

BIOS設定プログラムは、マザーボードを取り付けた時や、システムの再構成をした時、または”Run Setup”を促された時に使用します。本項では、この機能を使用してコンピュータの設定を行う方法を説明します。

BIOS設定プログラムを使用するように指示されていない場合でも、コンピュータの設定を変更することができます。例えば、セキュリティパスワード機能を有効にしたり、電源管理設定を変更したりすることができます。これらの設定を変更するためには、コンピュータがこれらの変更を認識し、LPCチップのCMOS RAMに記録できるように、BIOS設定プログラムを使用してコンピュータの設定を変更する必要があります。

マザーボードのLPCチップには、BIOSの設定プログラムが搭載されています。BIOS設定プログラムはコンピュータを起動するときに実行できます。起動時の自己診断テスト (POST) の間にを押すとBIOS設定プログラムが起動します。

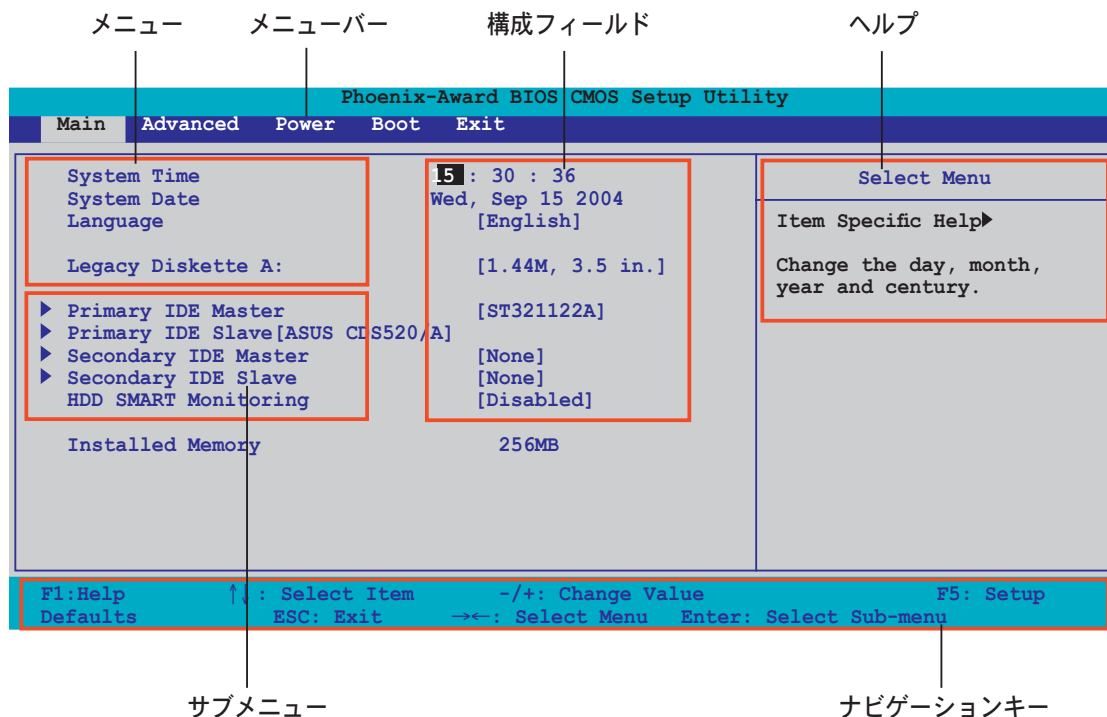
POSTの終了後にBIOSの設定プログラムを実行したい場合は、<Ctrl+Alt+Delete>を押すか、ケースのリセットボタンを押してシステムを再起動します。システムをオフにし、それからまたオンにすることによって再起動することもできます。ただし、これは最初の2つの方法が失敗した場合の最後の手段として行ってください。

BIOS設定プログラムは簡単に使用できるように設計されています。メニュー主導のプログラムですので、ナビゲーションキーを使用してさまざまなサブメニューをスクロールしたり、使用可能なオプションから選択することができます。



- このマザーボードのデフォルトのBIOS設定はほとんどの環境で、最適なパフォーマンスを実現できるように設定されています。BIOS設定を変更した後システムが不安定になったら、デフォルト設定をロードしてください。デフォルト設定に戻すには、終了メニューの下の「Load default Setting」を選択します。（詳細「2.7 終了メニュー」参照）
- 本書に掲載したBIOSの画面は一例であり、実際に表示される内容と異なる場合があります。
- 最新のBIOSはASUS web サイト(www.asus.co.jp)からダウンロードしてください。

2.2.1 BIOSメニュー画面



2.2.2 メニューバー

スクリーン上部のメニューバーには、次のメインアイテムがあります。

Main	基本システム設定の変更改用
Advanced	拡張システム設定の変更改用
Power	拡張電源管理(APM)設定の変更改用
Boot	システム起動設定の変更改用
Exit	終了オプションとロードデフォルト設定の選択用

メニューバーの項目を選択するには、キーボードの右または左の矢印キーを使って、項目をハイライト表示させます。



- BIOSメニュー画面は一例であり、実際に表示される内容と異なる場合があります。
- 最新の BIOS はASUS Web サイト(www.asus.co.jp)からダウンロードしてください。

2.2.3 ナビゲーションキー

ナビゲーションキーを使ってセットアップメニューを移動することができます。下の表はナビゲーションキーの機能をまとめたものです。

ナビゲーションキー	機能
<F1>	全般ヘルプを表示
<F5>	設定のデフォルト値をロード
<Esc>	BIOS メニューを退出または、サブメニューからメインメニューに戻る
<←><→>	左右に移動してメニューを指定する
<↑><↓>	上下に移動して項目を指定する
<Page Down> <->	ハイライト表示した項目の値を下げる
<Page Up> <+>	ハイライト表示した項目の値を上げる
<Enter>	ハイライト表示した項目を選択する
<F10>	変更を保存して退出

2.2.4 メニュー

メニューバーのハイライト表示された項目のメニューのを表示します。例えば、メインを選択するとメインのメニューが表示されます。

メニューバーの他の項目(拡張、電源、終了)には、それぞれのメニューがあります。

2.2.5 サブメニュー

メニュースクリーンの各項目の前の黒い三角形は、その項目がサブメニューであることを意味しています。サブメニューを表示するためには、項目を選択し <Enter> を押します。

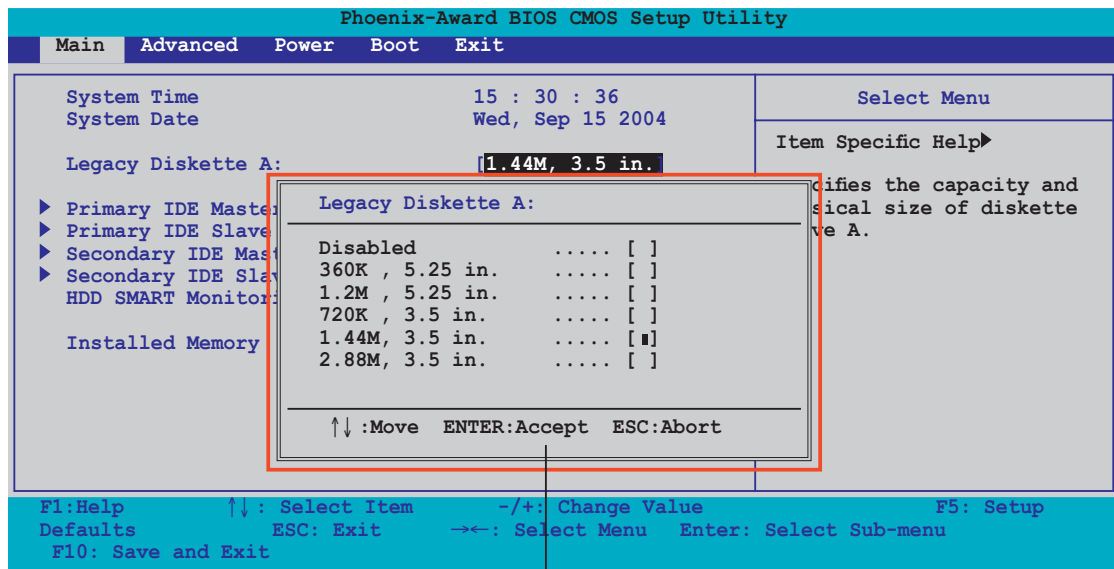
2.2.6 構成フィールド

構成フィールドには設定された値が表示されています。設定の変更が可能な項目は、フィールドの値を変更できます。ユーザーによる変更が不可能でない項目は、選択することができません。

各値はカッコで囲まれており、選択するとハイライト表示されます。フィールドの値を選択するには、選択し <Enter> を押してオプションのリストを表示させます。

2.2.7 ポップアップウィンドウ

項目を選択し <Enter> を押すと、設定可能なオプションと共にポップアップウィンドウが表示されます。



ポップアップウィンドウ

2.2.8 ヘルプ

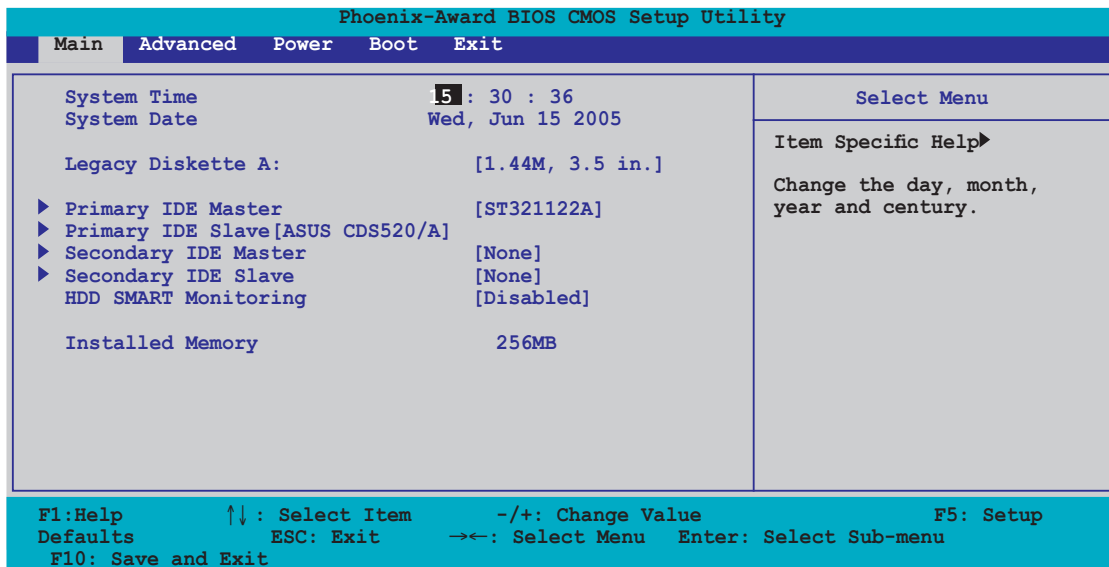
メニュー画面の右上には、選択した項目の簡単な説明が表示されます。

2.3 メインメニュー

BIOS 設定プログラムに入ると、メインメニューが表示され、システム情報の概要を表示します。



メニュー画面の情報および操作方法については、「2.2.1 BIOS メニュー画面」を参照してください。



2.3.1 System Time [xx:xx:xxxx]

システム時間を設定します。

2.3.2 System Date [Day xx/xx/xxxx]

システム日付を設定します。

2.3.3 Legacy Diskette A [1.44M, 3.5 in.]

取り付けられたフロッピードライブのタイプを設定します。

設定オプション : [Disabled] [360K, 5.25 in.] [1.2M, 5.25 in.]
[720K, 3.5 in.] [1.44M, 3.5 in.] [2.88M, 3.5 in.]

2.3.4 Primary、Third、Fourth IDE Master/Slave

BIOS は接続された IDE デバイスを自動的に検出します。「Device」を選択し、<Enter>を押すと IDE デバイスの情報が表示されます。

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility	
Main	
Primary IDE Master	Select Menu
Primary IDE Master [Auto]	Item Specific Help▶▶
Access Mode [Auto]	Press [Enter] to select
Capacity 13579 MB	
Cylinder 26310	
Head 16	
Sector 63	
PIO Mode [Auto]	
UDMA Mode [Auto]	
Transfer Mode UDMA 4	

F1: Help ↑↓: Select Item -/+ : Change Value F5: Setup
Defaults ESC: Exit →←: Select Menu Enter: Select Sub-menu
F10: Save and Exit

BIOSは、Capacity、Cylinder、Head、Sector、Transfer Mode の値を自動的に検出します。これらの項目の値は変更することはできません。また、システムに IDE デバイスが接続されていない場合は N/A と表示されます。

Primary/Secondary IDE Master/Slave [Auto]

[Auto]を選択すると、IDE HDD を自動的に検出します。正しく検出されると、BIOS のサブメニューに値が表示されます。HDDが前のシステムで既にフォーマットしてある場合は、間違った値を表示することがあります。その場合は、[Manual]を選択し、手動で IDE HDD の値を入力してください。ドライバを取り付けていない場合は、[None]を選択してください。

設定オプション : [None] [Auto] [Manual]

Access Mode [Auto]

[Auto]に設定してあると、自動的にIDE HDDを検出します。Primary IDE Master/Slave を [Manual] に設定してある場合は、この項目を[CHS]に設定してください。

設定オプション : [CHS] [LBA] [Large] [Auto]



HDD の設定を行う前にドライブのメーカーから、正しい設定情報を確認してください。間違った設定によりシステムがHDDの認識を誤る場合があります。

Capacity

ハードディスクの容量を表示。設定不可。

Cylinder

ハードディスクシリンダー数を表示。設定不可。

Head

ハードディスクの読み出し/書き込みヘッド数を表示。設定不可。

Sector

トラックごとにセクタの数を表示。設定不可。

PIO Mode

IDE デバイス用にPIOモードを設定。

設定オプション : [Auto] [Mode 0] [Mode 1] [Mode 2] [Mode 3] [Mode 4]

UDMA Mode

UDMAモードの設定。

設定オプション : [Disabled] [Auto]

Transfer Mode

転送モードを表示。設定不可。



BIOSのIDE hard disk drive information へ入ったら、FDISKなどのディスクユーティリティを使って、パーティションで区切ったり新しいIDE HDDをフォーマットしてください。この作業はハードディスクのデータの読み書きをするために必要です。Primary IDE HDD のパーティションの設定を必ず行ってください。

2.3.5 HDD SMART Monitoring

ハードディスクの SMART (Self-Monitoring Analysis & Reporting Technology) 機能の設定。

設定オプション : [Disabled] [Enabled]

2.3.6 Installed Memory

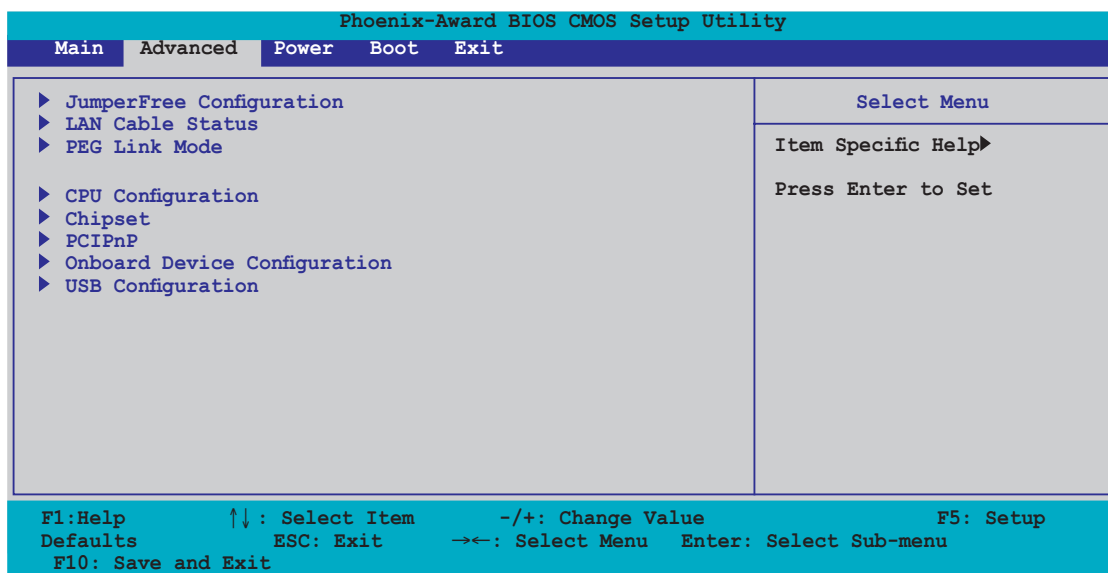
メモリの容量を表示。

2.4 拡張メニュー

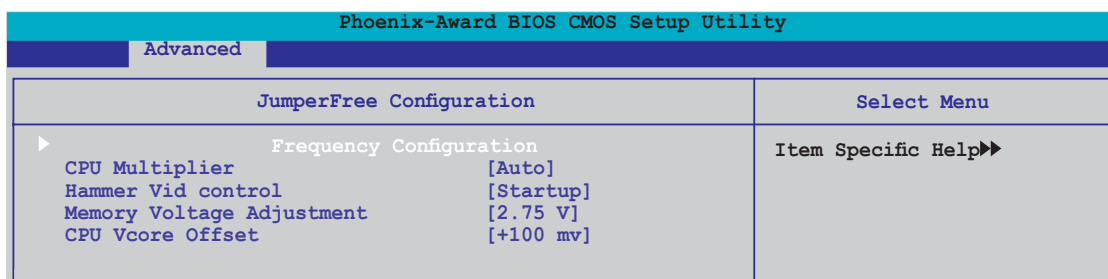
CPUとその他のシステムデバイスの設定を変更します。



拡張メニューの設定変更は、システムの誤動作の原因となることがあります。
十分に注意してください。

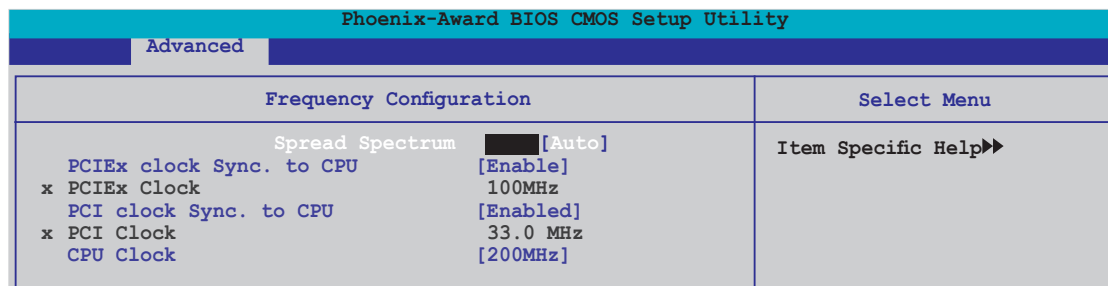


2.4.1 JumperFree Configuration



Frequency Configuration

BIOSが自動検出したクロック情報を表示します。



Spread Spectrum [Auto]

クロック発振器スペクトラム拡散を設定します。
設定オプション : [Disabled] [Enabled] [Auto]

PCIEx clock Sync. to CPU [Enable]

CPUへのPCI Express™ 同期クロック。
設定オプション : [Disabled] [Enabled]

PCIEx Clock [XXX] (value is auto-detected)

PCI Express クロック周波数の設定。PCIEx clock Sync. to CPU が [Disabled] に設定されている場合のみ設定可能。BIOS がデフォルト値を自動検出します。 <Enter> を押して、ご希望の PCI Express クロックを入力してください。

PCI clock Sync. to CPU [Enable]

CPUへのPCI 同期クロックを設定します。
設定オプション : [Disabled] [Enabled]

PCI Clock [XXX] (value is auto-detected)

PCI クロック周波数を設定します。PCI clock Sync. to CPU item の項目を [Disabled] に設定した場合のみ設定可能。 BIOS がデフォルト値を自動検出します。 <Enter> を押して、ご希望の PCI Express clock frequency を入力してください。

CPU Clock [XXX] (value is auto-detected)

クロック発振器より送られた周波数をシステムバスとPCIバスに対し無効にします。 BIOS がデフォルト値を自動検出します。 <+> 、 <-> を使って CPU 周波数を調節してください。



周波数を高く設定しすぎると、システムが不安定になる場合があります。不安定になった場合はデフォルト設定に戻してください。

CPU Multiplier [Auto]

CPU の動作倍率を設定。CPUのタイプによって設定オプションは異なります。
設定オプション : [Auto] [x4] [x4.5] [x5] [x5.5] [x6] [x6.5] [x7] [x7.5] [x8] [x8.5] [x9] [x9.5] [x10] [x10.5] [x11]

Hammer Vid control [Startup]

Hammer Voltage ID コントロールの設定。

設定オプション : [Startup] [1.5625v] [1.550 v] [1.5375v] [1.525 v]
[1.5125v] [1.500 v] [1.4875v] [1.475 v] [1.4625v] [1.450 v] [1.4375v]
[1.425 v] [1.4125v] [1.400 v] [1.3875v] [1.375 v] [1.3625v] [1.350 v]
[1.3375v] [1.325 v] [1.3125v] [1.300 v] [1.2875v] [1.275 v] [1.2625v]
[1.250 v] [1.2375v] [1.225 v] [1.2125v] [1.200 v] [1.1875v] [1.175 v]
[1.1625v] [1.150 v] [1.1375v] [1.125 v] [1.1125v] [1.100 v] [1.0875v]
[1.075 v] [1.0625v] [1.050 v] [1.0375v] [1.025 v] [1.0125v] [1.000 v]
[0.9875v] [0.975 v] [0.9625v] [0.950 v] [0.9375v] [0.925 v] [0.9125v]
[0.900 v] [0.8875v] [0.875 v] [0.8625v] [0.850 v] [0.8375v] [0.825 v]
[0.8125v] [0.800 v]

Memory Voltage Adjustment [2.75 V]

メモリ電圧調整。

設定オプション : [2.60 V] [2.65 V] [2.70 V] [2.75 V] [2.80 V] [2.85 V]
[2.90 V] [2.95 V] [3.00 V]

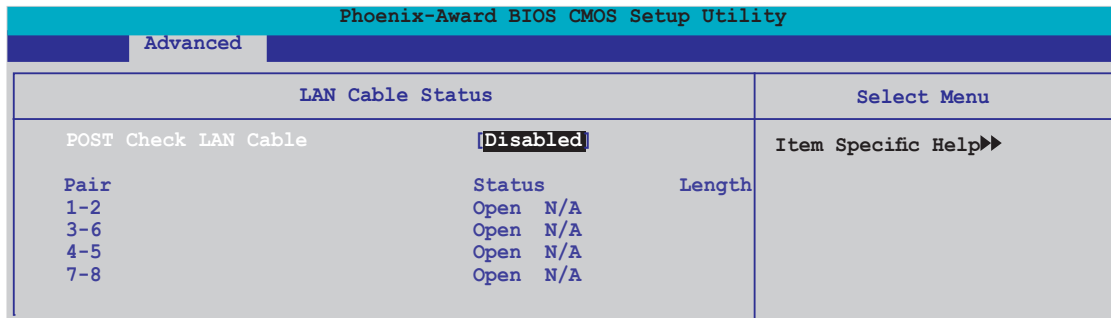
CPU VCore Offset [+100 mv]

CPU Vcoreオフセット電圧の設定。

設定オプション : [+100 mv] [+200 mv]

2.4.2 LAN Cable Status

LANケーブルの状態を表示。



The screenshot shows the BIOS CMOS Setup Utility interface. The title bar reads "Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility". The "Advanced" menu is selected. The "LAN Cable Status" screen is displayed, showing the "POST Check LAN Cable" option set to "[Disabled]". A table lists LAN cable pairs (1-2, 3-6, 4-5, 7-8) with their status (Open) and length (N/A). An "Item Specific Help" option is visible on the right.

LAN Cable Status		Select Menu
POST Check LAN Cable	[Disabled]	Item Specific Help▶▶
Pair	Status	Length
1-2	Open N/A	
3-6	Open N/A	
4-5	Open N/A	
7-8	Open N/A	

POST Check LAN cable [Disabled]

POST中にLAN ケーブルのチェックを希望する場合は、[Enabled]に設定。

設定オプション : [Disabled] [Enabled]

2.4.3 PEG Link Mode

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility	
Advanced	
PEG Link Mode	Select Menu
PEG Link Mode [Auto]	Item Specific Help▶▶

PEG Link Mode [Auto]

PCI Express ビデオカードのパフォーマンスを拡張します。

設定オプション : [Auto] [Disabled] [Normal] [Fast] [Faster]

2.4.4 CPU 設定

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility	
Advanced	
CPU Configuration	Select Menu
CPU Type AMD Dual Core Processor 4200+	Item Specific Help▶▶
CPU Speed 2200MHz	
Cache RAM 512K x2	
Current FSB Frequency 200 MHz	
AMD K8 Cool'n'Quiet control [Disabled]	

AMD K8 Cool 'n' Quiet control [Disabled]

AMD Cool 'n' Quiet!™ Technology 機能の設定をします。

設定オプション : [Auto] [Disabled]



この機能をお使いになる場合は、AMD のCPUヒートシンクとファンのセット、モニターチップが必要です。ヒートシンクとファンを別々に購入した場合は、ASUS Q-Fan Technology 機能を使うと、システムの負荷に応じて自動的にCPU ファンスピードを調整します。

2.4.5 チップセット

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility	
Advanced	
Chipset	Select Menu
▶ DRAM Configuration	Item Specific Help▶▶ DRAM timing and control
Upstream LDT Bus Width [16 bit]	
Downstream LDT Bus Width [16 bit]	
LDT Bus Frequency [Auto]	
VLink Mode Selection [By Auto]	
PEG Data Scrambling [Auto]	
PE0-PE3 Data Scrambling [Enable]	
Init Display First [PCI Slot]	
Chipset Vcore Adjustment [+1.6 V]	

DRAM Configuration

サブメニューの項目はDRAMに関する情報です。

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility		
Advanced		
DRAM Configuration	Select Menu	
Current DRAM Frequency	200 MHz	Item Specific Help▶▶▶ Place an artificial memory clock limit on the system. Memory is prevented from running faster than this frequency.
Timing Mode	[Auto]	
x Memclock index value (Mhz)	200Mhz	
x CAS# latency (Tcl)	2.5	
x Min RAS# active time (Tras)	8T	
x RAS# to CAS# delay (Trcd)	4T	
x Row precharge Time (Trp)	4T	
x 1T/2T Memory Timing	2T	
H/W DRAM Over 4G Remapping	[Enabled]	
MTRR mapping mode [Continuous]		
Master ECC Enabled	[Enabled]	
ECC Memory Interlock	[At least One]	
F1: Help ↑↓: Select Item -/+ : Change Value F5: Setup Defaults ESC: Exit →←: Select Menu Enter: Select Sub-menu F10: Save and Exit		

Current DRAM Frequency

転送モード。設定不可。

Timing Mode [Auto]

タイミングモードの設定をします。

設定オプション : [Auto] [Manual]

Memclock index value (Mhz) [200Mhz]

メモリクロック index value の設定をします。

設定オプション : [100Mhz] [133Mhz] [166Mhz] [200Mhz] [216Mhz] [233Mhz] [250Mhz]

CAS# latency (Tcl) [2.5]

DDR SDRAM がコマンドを読み取ってからデータが実行されるまでのレイテンシをコントロールします。

設定オプション : [2.0] [2.5] [3.0]

Min RAS# active time (Tras) [8T]

RAS# の最小アクティブタイムを設定します。

設定オプション : [5] [6] [7] [8] [9] [10] [11] [12] [13] [14] [15]

RAS# to CAS# delay (Trcd) [4T]

DDR SDRAM のRAS信号からCAS信号への切り換えに必要な待ち時間を設定します。

設定オプション : [2] [3] [4] [5] [6] [7]

Row precharge Time (Trp) [Auto]

再充電を行う時間を設定します。
設定オプション : [2] [3] [4] [5] [6] [7]

1T/2T Memory Timing [2T]

メモリアイミングの設定をします。
設定オプション : [1T] [2T]

H/W DRAM Over 4G Remapping [Enabled]

メインメモリを4Gを使用しているときのハードウェアDRAM リマッピングの設定をします。
設定オプション : [Disabled] [Enabled]

MTRR mapping mode [Continuous]

MTRRマッピングモードの設定。
設定オプション : [Continuous] [Discrete]

Master ECC Enable [Enable]

Master ECCの設定をします。
設定オプション : [Disable] [Enable]

ECC Memory Interlock [At Least One]

ECC メモリインターロックの設定。
設定オプション : [At Least One] [All Are]

Upstream LDT Bus Width [16 bit]

アップストリーム LDT (Lightning Data Transport)バス幅の設定をします。
設定オプション : [8 bit] [16 bit]

Downstream LDT Bus Width [16 bit]

ダウンストリームLDT (Lightning Data Transport)バス幅の設定をします。
設定オプション : [8 bit] [16 bit]

LDT Bus Frequency [Auto]

LDT (Lightning Data Transport)バスクロックの設定をします。
設定オプション : [Auto] [1 GHz] [800 MHz] [600 MHz] [400 MHz]
[200 MHz]

VLink Mode Selection [By Auto]

VLink モードの設定。
設定オプション : [By Auto] [Mode 0] [Mode 1] [Mode 2] [Mode 3] [Mode 4]

PEG Data Scrambling [Auto]

PCI Express™ビデオデータスクランプリングの設定をします。
設定オプション：[Auto] [Disable] [Enable]

PE0-PE3 Data Scrambling [Enable]

PCI Express™ 0 から PCI Express™ 3 データスクランプリングの設定をします。
設定オプション：[Disable] [Enable]

Init Display First [PCI Slot]

プライマリブートデバイスとしてビデオコントローラを選択します。
設定オプション：[PCI Slot] [PCIEx]

Chipset Vcore Adjustment [+1.5 V]

チップセットのVcore電圧の設定をします。
設定オプション：[+1.5 V] [+1.6 V]

2.4.6 PCI PnP

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility	
Advanced	
Frequency/Voltage control	Select Menu
Plug & Play O/S [No]	Item Specific Help▶▶
Resources Controlled By [Auto]	Select Yes if you are using a Plug and Play capable operating system. Select No if you need the BIOS to configure non-boot devices.
* IRQ Resources [Enabled]	
Assign IRQ for VGA [Enabled]	
** PCI Express relative items **	
Maximum Payload Size [4096]	

Plug & Play O/S [No]

この項目を[No]に設定すると、BIOS はマザーボードに接続されたデバイスの設定を自動的に行います。
設定オプション：[No] [Yes]

Resources Controlled By [Auto]

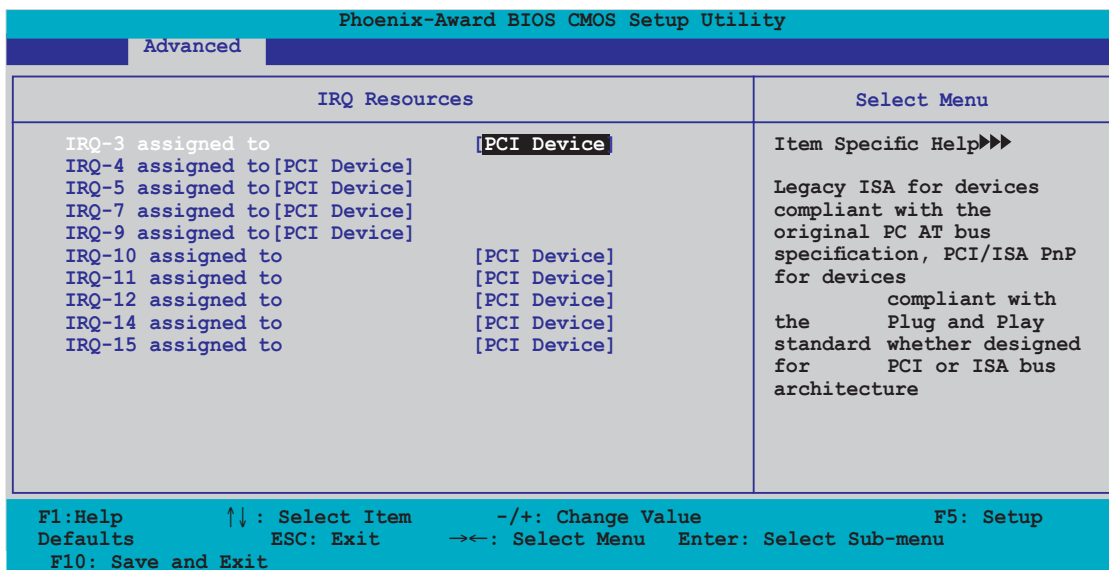
この項目を[Auto]に設定すると、BIOSはブートデバイスとプラグアンドプレイデバイスの設定を自動的に行います。IRQ DMAまたはメモリベースアドレスフィールドに割り当てたい場合は、[Manual]に設定してください。
設定オプション：[Auto] [Manual]



Resources Controlled Byが[Auto]に設定されている場合、IRQ Resources はグレーになり設定不可です。詳細は「IRQ Resources」をご覧ください。

IRQ Resources

Resources Controlled By が[Manual]に設定されている場合のみ、有効です。



IRQ-xx assigned to

この項目を[PCI Device]に設定すると、特定の IRQ が PCI/PnP デバイスを自由に使用します。[Reserved]に設定すると、IRQ はレガシー ISA デバイス専用になります。

設定オプション : [PCI Device] [Reserved]

Assign IRQ for VGA [Enabled]

この項目を[Enabled]に設定すると、カードが IRQ を要求すると IRQ を PCI VGA カードに割り当てます。[Disabled]に設定すると、BIOSはたとえ要求されても IRQ を PCI VGAに割り当てません。

設定オプション : [Disabled] [Enabled]

Maximum Payload Size [4096]

PCI Express デバイス用の最大ペイロードサイズをByteで設定します。

設定オプション : [128] [256] [512] [1024] [2048] [4096]

2.4.7 オンボードデバイス設定

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility		
Advanced		
Onboard Device Configuration		Select Menu
Onboard PCIE GbE LAN	Enabled	Item Specific Help▶▶
Onboard LAN Boot ROM	[Disabled]	Enable/Disable Onboard
OnChip SATA	[Enabled]	1394 device support.
SATA Mode	[RAID]	
Onboard AC97 Audio	[Auto]	
Serial Port1 Address	[3F8/IRQ4]	
Parallel Port Address	[378/IRQ7]	
Parallel Port Mode	[ECP+EPP]	
EPP Mode Select	[EPP1.7]	
ECP MODE Use DMA	[3]	
Game Port Address[201]		
Midi Port Address[330]		
Midi Port IRQ	[10]	

F1:Help ↑↓: Select Item -/+ : Change Value F5: Setup
 Defaults ESC: Exit →←: Select Menu Enter: Select Sub-menu
 F10: Save and Exit

OnBoard PCIE GbE LAN [Enabled]

オンボードPCI Express Gigabit LAN コントローラの設定をします。
 設定オプション : [Disabled] [Enabled]

OnBoard LAN Boot ROM [Disabled]

オンボード LAN ブート ROMの設定をします。
 設定オプション : [Disabled] [Enabled]

OnChip SATA [Enabled]

オンボードVIA Serial ATA コントローラの設定をします。
 設定オプション : [Disabled] [Enabled]

SATA Mode [RAID]

オンボードVIA SATA RAIDコントローラモードの設定をします。
 設定オプション : [IDE] [RAID]

Onboard AC97 Audio [Auto]

Onboard AC' 97 Audio Controller の設定をします。
 設定オプション : [Disabled] [Auto]

Serial Port1 Address [3F8/IRQ4]

Serial Port1 ベースアドレスの選択をします。
 設定オプション : [Disabled] [3F8/IRQ4] [2F8/IRQ3] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3]
 [Auto]

Parallel Port Address [378/IRQ7]

Parallel Port のベースアドレスを選択します。

設定オプション : [Disabled] [378/IRQ7] [278/IRQ5] [3BC/IRQ7]

Parallel Port Mode [ECP+EPP]

Parallel Port の動作モードを選択します。

設定オプション : [SPP] [EPP] [ECP] [ECP+EPP] [Normal]

EPP Mode Select [EPP1.7]

Parallel Port EPP バージョンの選択をします。

設定オプション : [EPP1.9] [EPP1.7]

ECP Mode Use DMA [3]

ECPモードの選択。

設定オプション : [1] [3]

Game Port Address [201]

Game Port アドレスの選択または無効。

設定オプション : [Disabled] [201] [209]

Midi Port Address [330]

Midi Port アドレスの選択または無効。

設定オプション : [Disabled] [330] [300] [290]

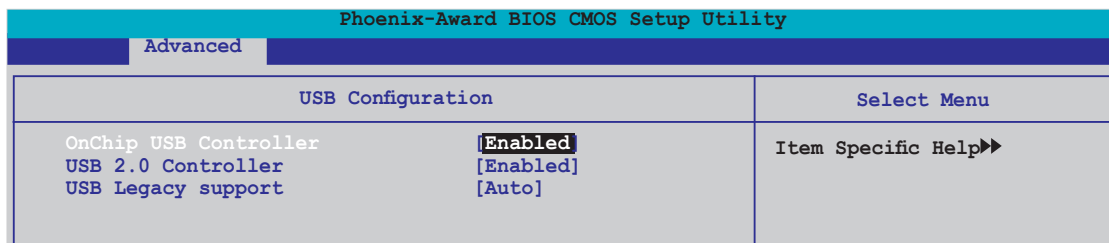
Midi Port IRQ [10]

Midi ポート IRQ アドレスを設定。

設定オプション : [5] [10]

2.4.8 USB 設定

USBに関係機能を設定します。項目を選択し<Enter>を押すと設定オプションが表示されます。



OnChip USB Controller [Enabled]

オンチップ USB コントローラの設定をします。

設定オプション : [Enabled] [Disabled]

USB 2.0 Controller [Enabled]

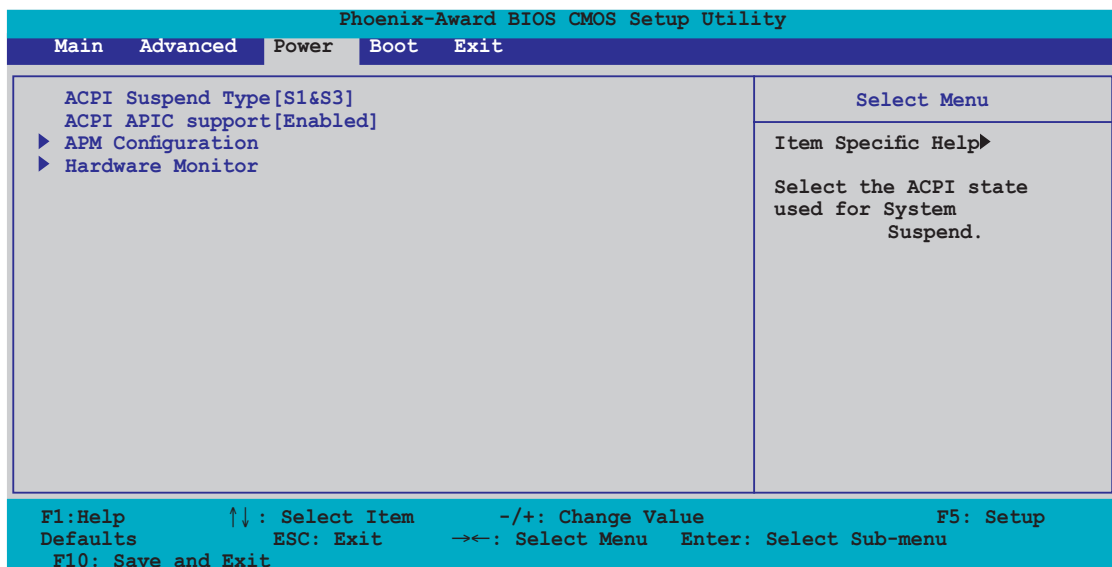
USB 2.0 コントローラの設定をします。
設定オプション : [Disabled] [Enabled]

USB Legacy Support [Auto]

レガシーOSのUSB デバイスの設定をします。
設定オプション : [Auto] [Disabled] [Enabled]

2.5 電源メニュー

ACPI や APM 機能の設定の変更を行います。項目を選択し<Enter>を押すと設定オプションが表示されます。



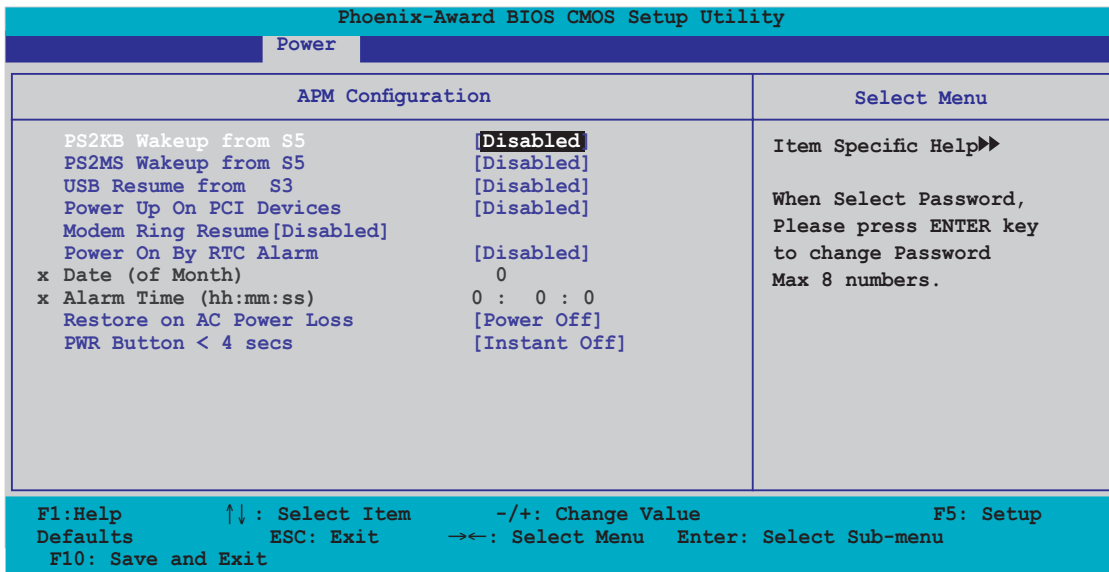
2.5.1 ACPI Suspend Type [S1&S3]

システムのサスペンドに使用されるACPI の状態を選択します。
設定オプション : [S1 (POS)] [S3(STR)] [S1&S3]

2.5.2 ACPI APIC Support [Enabled]

APIC が、ACPI をサポートするかどうかの切り替えを行います。
設定オプション : [Disabled] [Enabled]

2.5.3 APM の設定



PS2KB Wakeup from S5 [Disabled]

Power On by PS/2 keyboard 機能を[Disabled]に設定するか、PS/2 キーボードの特定のキーを設定してシステムをオンにします。この機能は、+5V SB リード線で最低1A を提供する電源を必要とします

設定オプション : [Disabled] [Space Bar] [Ctrl+ESC] [Power Key]

PS2MS Wakeup from S5 [Disabled]

この項目を[Enabled]に設定すると、パラメータはPS/2 マウスを使ってシステムをオンにします。この機能は、+5V SB リード線で最低1A を提供する電源を必要とします。

設定オプション : [Disabled] [Enabled]

Power On By PCI Devices [Disabled]

この項目を[Enabled] に設定すると、PCI 接続のLAN またはモデムカードを通してコンピュータの電源をオンにすることができます。この機能は、+5V SB リード線で最低1A を提供する電源を必要とします。

設定オプション : [Disabled] [Enabled]

Modem Ring Resume [Disabled]

コンピュータがソフトオフモードになっているときに、外部モデムが受信した場合に、コンピュータの電源をオンにするかどうかを設定をします。

設定オプション : [Disabled] [Enabled]

Power On By RTC Alarm [Disabled]

指定した時刻に電源をオンにすることができます。

設定オプション : [Disabled] [Enabled]

Date (of Month) [0]

アラームの日付けを設定します。<Enter>を押すとポップアップメニューが表示されます。

設定オプション : [Min=0] [Max=31]

Alarm Time (hh:mm:ss) 0 : 0 : 0

アラームの設定

1. <Enter>を押して時間設定のポップアップメニューを表示させます。
2. 時間(最小=0、最大=23)を入力して<Enter>を押します。
3. <TAB>を使って「分」入力フィールドへ移動し<Enter>を押します。
4. 分(最小=0、最大=59)を入力して<Enter>を押します。
5. <TAB>を使って「秒」入力フィールドへ移動し<Enter>を押します。
6. 秒(最小=0、最大=59)を入力して<Enter>を押します。

Restore on AC Power Loss [Power Off]

この項目を[Power Off]に設定すると、停電などで電力が遮断された場合に再通電時に電源をオフにします。また、[Power On]に設定すると、再通電時に電源をオンにします。[Last State]に設定すると、再通電時に、直前の電源状態に戻ります。

設定オプション : [Power Off] [Power On] [Last State]

PWR Button < 4 secs [Instant-Off]

電源を4秒以上押した後のイベントの設定をします。

設定オプション : [Suspend] [Instant-Off]

2.5.4 ハードウェアモニタ

BIOSで自動的に検出されたハードウェアモニターの値を表示します。また、CPU Q-Fan に関連する項目を変更します。<Enter>を押すと設定オプションが表示されます。

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility			
Power			
Hardware Monitor		Select Menu	
M/B Temperature	34°/ 93°	Item Specific Help▶▶	
Current CPU1 Temperature	47°/118°		
Chassis Fan speed	0 RPM		
CPU Fan speed	4265 RPM		
Power Fan speed	7500 RPM		
VCORE Voltage	1.64V		
+12V Voltage	[11.35V]		
+3.3V Voltage	[3.36V]		
+5VCC Voltage	[5.22V]		
Q-FAN Function	[Disabled]		
x CPU Target Temperature	45°/113°		
x Temperature Tolerance	3°		
x Minimum FAN Duty Cycle	11/16		
x FAN Step Time	0.1 sec		
F1:Help ↑↓: Select Item -/+ : Change Value F5: Setup			
Defaults ESC: Exit →←: Select Menu Enter: Select Sub-menu			
F10: Save and Exit			

M/B Temperature

Current CPU Temperature

マザーボードとCPUの温度を自動的に検出して表示します。設定不可。

Chassis Fan Speed

CPU Fan Speed

Power Fan Speed

ケース、CPU、パワーファンの回転数を自動的に検出し、回転数/分(RPM)の単位で表示します。ファンがマザーボードに接続されていない場合は「0」と表示されます。設定不可。

VCORE Voltage、+12V Voltage、3.3V Voltage、5VCC Voltage

VCOREの電圧を自動的に検出して表示します。設定不可。

Q-FAN Function [Disabled]

ASUS Q-Fanの設定をします。

設定オプション : [Disabled] [Enabled]

CPU Target Temperature [xxx°C/xxx°F]

CPU ファンの回転数を上げる基準温度を設定します。

設定オプション : [10°C/50°F] [15°C/59°F] [20°C/68°F] [25°C/77°F]
[30°C/86°F] [35°C/95°F] [40°C/104°F] [45°C/113°F] [50°C/122°F]
[55°C/131°F] [60°C/140°F] [65°C/149°F] [70°C/158°F] [75°C/167°F]
[80°C/176°F] [85°C/185°F]

Temperature Tolerance [3°C]

CPU 温度許容誤差を設定します。

設定オプション : [0°C] [1°C] [2°C] [3°C] [4°C] [5°C] [6°C] [7°C]

Minimum FAN Duty Cycle [11/16]

ファンの最小デューティサイクルを設定します。

設定オプション : [11/16] [12/16] [13/16][14/16] [15/16]

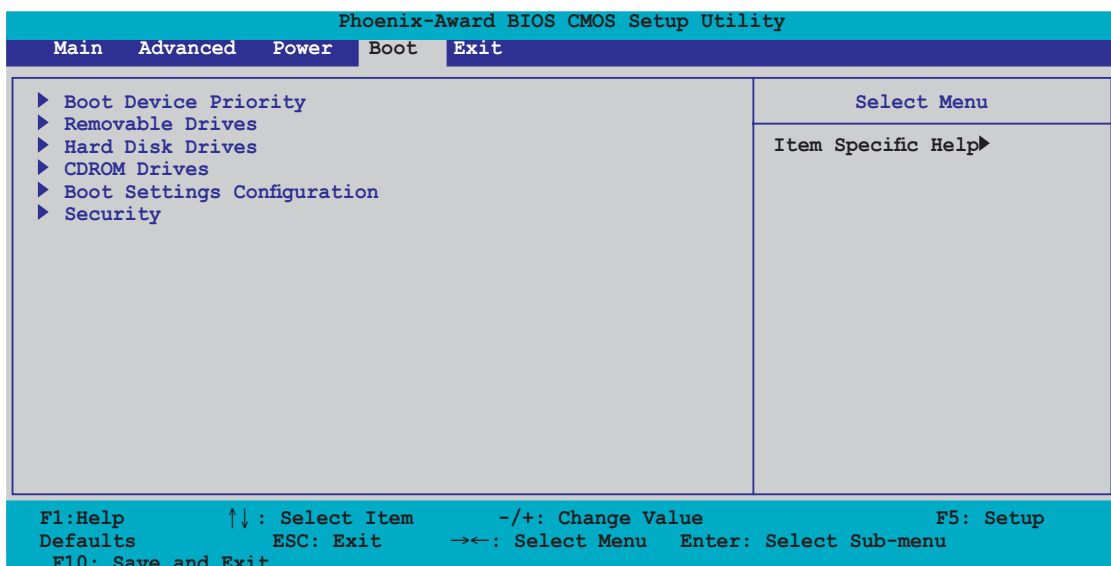
FAN Step Time [0.1 sec]

ファンの回転数のインターバルを設定します。

設定オプション : [0.1 sec] [0.2 sec] [0.3 sec] [0.4 sec] [0.5 sec] [0.6 sec]
[0.7 sec] [0.8 sec] [0.9 sec] [1.0 sec] [1.1 sec] [1.2 sec] [1.3 sec]
[1.4 sec] [1.5 sec] [1.6 sec]

2.6 ブートメニュー

システムをブートする際のオプションを変更をします。 <Enter>を押すとサブメニューが表示されます。



2.6.1 ブートデバイス優先順位

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility		
Power		
Boot Device Priority		Select Menu
1st Boot Device	[Removable]	Item Specific Help▶▶
2nd Boot Device	[Hard Disk]	
3rd Boot Device	[CDROM]	
4th Boot Device	[Disabled]	Select your boot device priority

1st ~ xxth Boot Device [Removable]

ブートさせるデバイスの優先順位を指定します。画面に表示されるデバイスの数は、ブート可能なデバイスの数です。

設定オプション : [xxxxxx Drive] [Disabled]

2.6.2 リムーバブルドライブ

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility		
Boot		
Removable Drives		Select Menu
1. Floppy Disks		Item Specific Help▶▶

1. Floppy Disks

リムーバブルドライブを割り当てます。

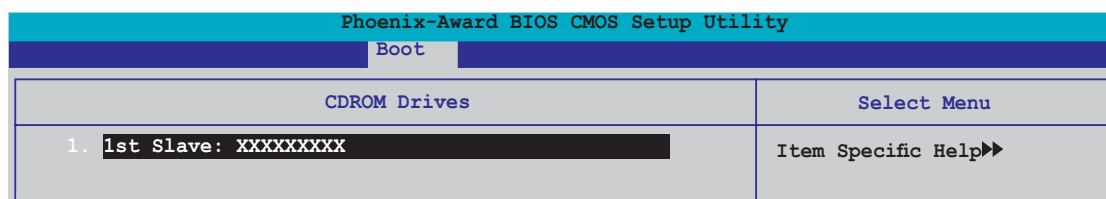
2.6.3 ハードディスクドライブ

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility		
Boot		
Removable Drives		Select Menu
1. 1st Master: XXXXXXXX		Item Specific Help▶▶
2. Bootable Add-in Cards		

1. 1st Master: XXXXXXXX

ハードディスクドライブを割り当てます。

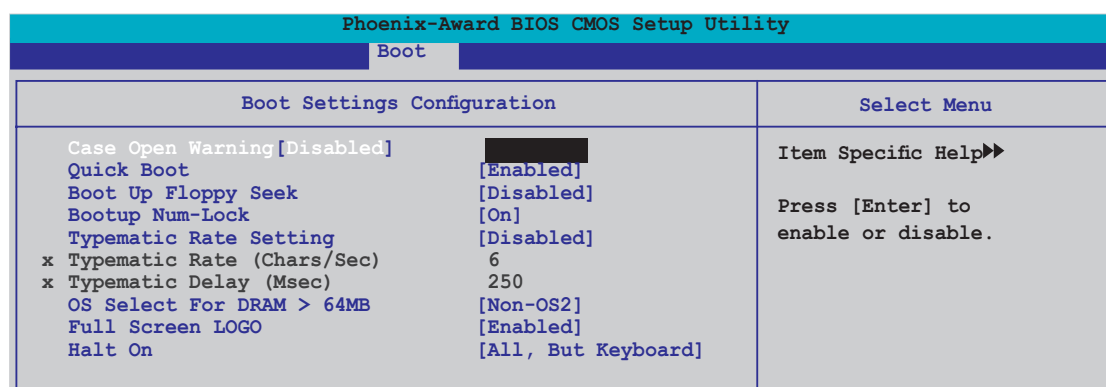
2.6.4 CDROM ドライブ



1. 1st Slave: XXXXXXXXXX

光学ドライブを割り当てます。

2.6.5 ブート設定



Case Open Warning [Disabled]

ケースオープンスタータス機能の設定。[Enabled]に設定するとステータスをクリアします。

設定オプション：[Disabled] [Enabled]

Quick Boot [Enabled]

クイックブート機能の設定。[Enabled]に設定すると、ブート時のいくつかのテストを飛ばします。

設定オプション：[Disabled] [Enabled]

Boot Up Floppy Seek [Disabled]

フロッピーディスクドライブの中にディスクが入っているかどうかをチェックします。

設定オプション：[Disabled] [Enabled]

Bootup Num-Lock [On]

NumLock の電源オン状態を選択します。

設定オプション：[Off] [On]

Typematic Rate Setting [Disabled]

キーストローク速度の設定。[Enable]に設定して「Typematic Rate (Chars/Sec)」と「Typematic Delay (Msec)」を設定します。

設定オプション：[Disabled] [Enabled]



Typematic Rate (Chars/Sec) と Typematic Delay (Msec) は「Typematic Rate Setting」を [Enabled] に設定すると設定可能になります。

Typematic Rate (Chars/Sec) [6]

キーを押し続けたときに文字がリピートする速度の設定をします。

設定オプション : [6] [8] [10] [12] [15] [20] [24] [30]

Typematic Delay (Msec) [250]

キーストロークがリピートを開始するまでの時間の設定をします。

設定オプション : [250] [500] [750] [1000]

OS Select for DRAM > 64MB [Non-OS2]

64 KB 以上の RAM を取り付けた OS/2 を実行する場合は、[OS2] に設定してください。

設定オプション : [Non-OS2] [OS2]

Full Screen LOGO [Enabled]

フルスクリーンロゴディスプレイ機能の設定。

設定オプション : [Disabled] [Enabled]



ASUS MyLogo2™ をご利用の場合は、[Enabled] に設定してください。

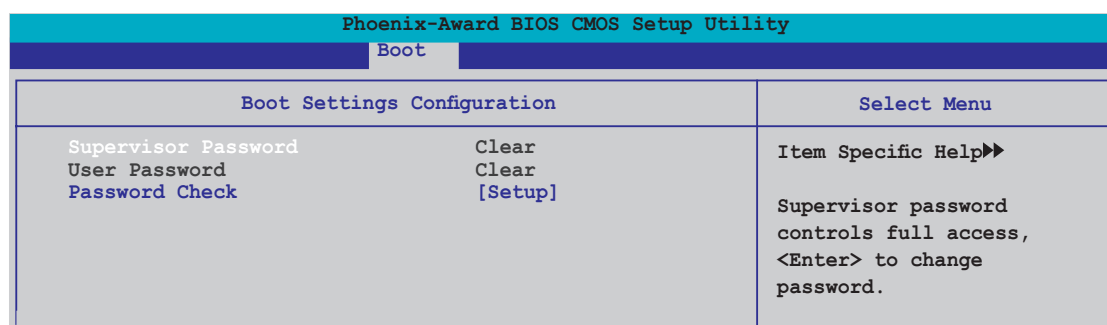
Halt On [All, But Keyboard]

エラーレポートのタイプを設定。

設定オプション : [All Errors] [No Errors] [All, But Keyboard]

[All, But Diskette] [All, But Disk/Key]

2.6.6 セキュリティ



Supervisor Password

User Password

管理者パスワードの設定

手順

1. 項目を選択し<Enter>を押します。
2. 8字以内の英数字からなるパスワードを入力し<Enter>を押します。
3. 確認のために、もう一度パスワードを入力し<Enter>を押します。フィールドが「Set」に変わります。

パスワードのクリア

1. パスワードフィールドを選択し<Enter>を2回押すと、下のメッセージが表示されます。

```
PASSWORD DISABLED !!!  
Press any key to continue...
```

2. 任意のキーを押すとフィールドが「Clear」に変わります。

パスワードに関する注意

「Supervisor password」は、BIOSメニューへ入るときに要求されます。

「User password」はシステムをブートするとき要求されます。

パスワードを忘れた場合

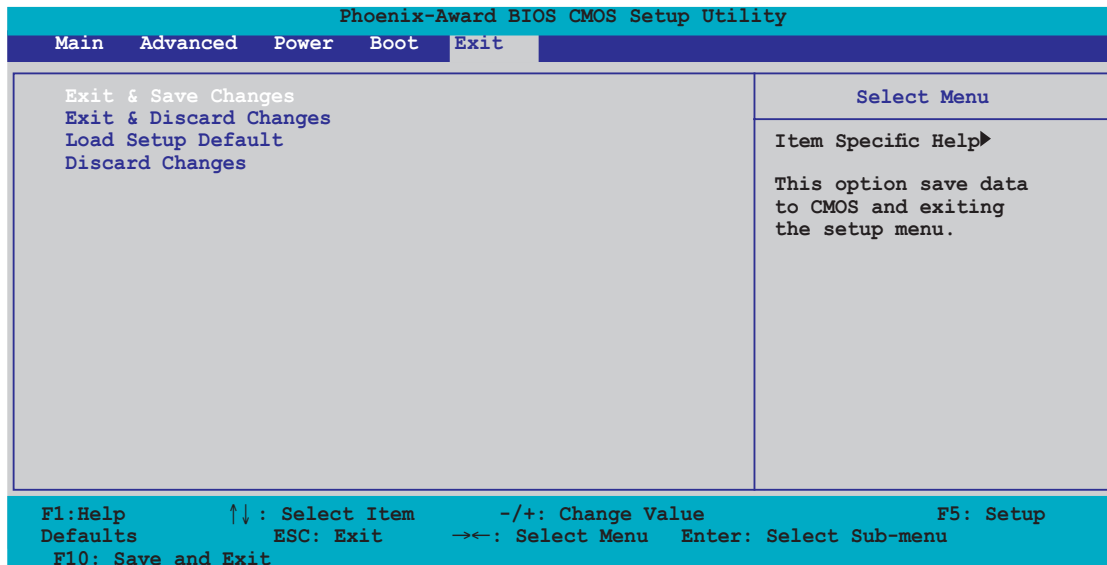
CMOS Real Time Clock (RTC) RAMを消去してパスワードをクリアすることができます。パスワード情報を含むRAM データはオンボードボタンセルバッテリーの電源を使います。CMOS RAMを消去する場合は「1.9 ジャンパ」をご参照ください。

Password Check

この項目を[Setup]に設定すると、BIOSへ入る前にパスワードが要求されます。
[System]に設定すると、システムに入る際にパスワードを要求されます。
設定オプション：[Setup] [System]

2.7 終了メニュー

BIOS 設定の保存や取り消しのほか、デフォルト値の読み込みを行います。



<Esc> を押してもこのメニューは終了しません。このメニューから終了する項目を選択するか、<F10> を押して終了します。

Exit & Save Changes

BIOSの設定が終了したら、「Exit menu」からこのオプションを選択し、設定をCMOS RAMに保存して終了します。オンボード用のバックアップで搭載されているバッテリーは、コンピュータの電源がオフになっているときでもBIOSの設定内容を保持します。この項目を選択すると、確認ウィンドウが表示されます。「OK」を選択すると、変更を保存して終了します。



設定を保存せずに<ESC>でBIOSメニューを終了しようとする、終了する前に変更を保存しますかと尋ねるメッセージが表示されます。その場合は<Enter>押して変更を保存します。

Exit & Discard Changes

BIOSメニューで行った設定を保存したくないときは、この項目を選択してください。ただし、システムの日付、システム時間、パスワード以外の設定を変更した場合は、終了する前に確認のメッセージが表示されます。

Load Setup Defaults

BIOSメニューのそれぞれの項目に対して、デフォルト値をロードします。このオプションを選択すると、確認メッセージが表示されます。「OK」を選択するとデフォルト値をロードします。

Discard Changes

BIOSメニューで設定した変更を破棄し、以前保存したときの値を復元します。このオプションを選択した後には、確認のメッセージが表示されます。確認のメッセージの表示で「OK」を選択すると変更を取り消し、以前保存したときの値をロードします。

サポート CD のコンテンツ

ソフトウェア 3

3.1 OS をインストールする

このマザーボードはWindows® 2000/2003 Server/XP OSをサポートしています。ハードウェアの機能を最大に活用するために、OS を定期的にアップデートしてください。



- ・ ここで説明するセットアップ手順は一例です。詳細については、OSのマニュアルをご参照ください。
- ・ 互換性とシステムの安定性のために、ドライバをインストールする前に、Windows® 2000 Service Pack 4 またはWindows® XP Service Pack 2以降のService Pack をインストールしてください。

3.2 サポートCD情報

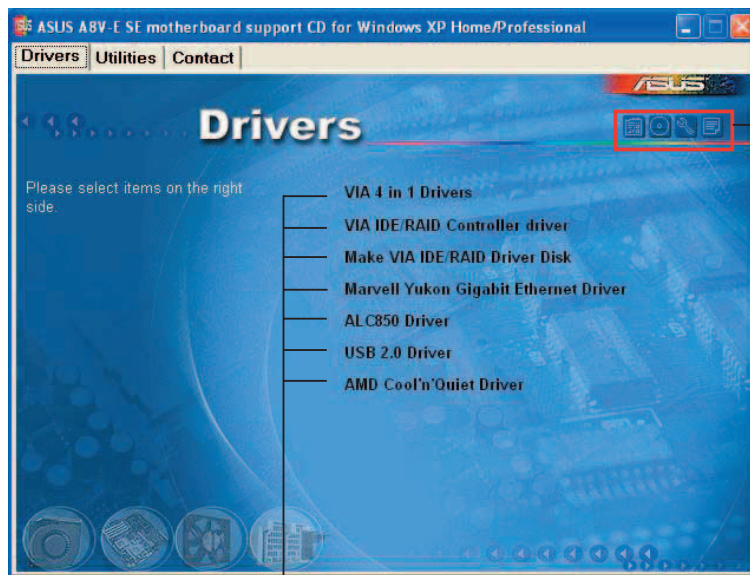
マザーボードに付属するサポートCDには、マザーボードを利用するために必要なドライバ、アプリケーション、ユーティリティが入っています。



サポートCDの内容は、予告なしに変更する場合があります。最新のは、ASUS webサイト (www.asus.co.jp)でご確認ください。

3.2.1 サポートCDを実行する

サポートCDを光学ドライブに入れます。OSの Autorun 機能が有効になっていれば、ドライバメニューが自動的に表示されます。



サポートCDとマザーボードの情報を表示できます。

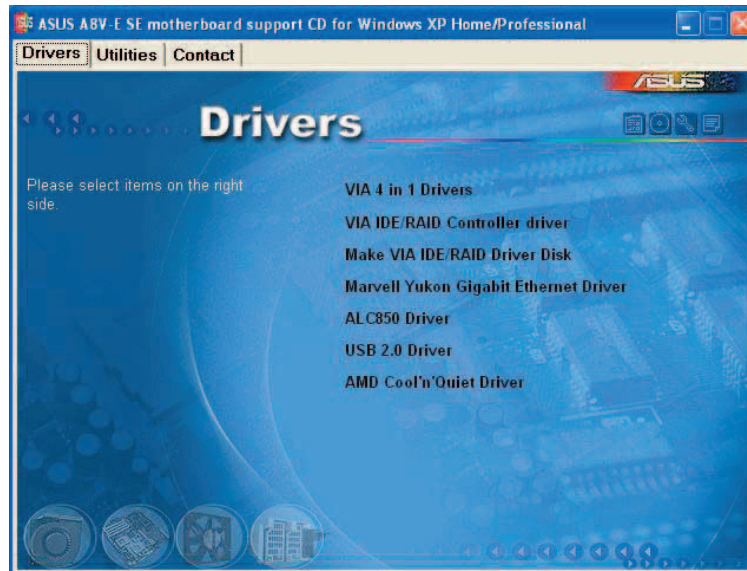
クリックしてインストールします



Autorun が有効になっていない場合は、サポートCDのBINフォルダからASSETUP.EXEを探してください。ASSETUP.EXEをダブルクリックすれば、ドライバメニューが表示されます。

3.2.2 ドライバメニュー

ドライバメニューには、インストールが可能なドライバが表示されます。必要なドライバを上から順番にインストールしてご利用ください。



VIA 4 in 1 Drivers

以下のドライバをインストールします。

- VIA Registry (INF) driver
- VIA ATAPI vendor support driver
- VIA PCI IRQ Miniport driver

VIA IDE RAID Controller driver

VIA 6420 RAID コントロールドライバとアプリケーションをインストールします。VIA RAID については、サポート CD の/Drivers/VIARAID/6420RAIDにある README.HTM ファイルをご参照ください。

Make VIA 6420 Driver Disk

VIA 6420 RAID 用に、RAID ドライバディスクを作成します。

PCI Marvell Yukon Gigabit Ethernet Driver

最大1000 Mbps のデータ転送率を提供するMarvell® Yukon 88E8053 PCI Express™ Gigabit LAN ドライバをインストールします。

ALC850 Audio Driver

Realtek® ALC850 オーディオコントローラとアプリケーションをインストールします。

USB 2.0 Driver

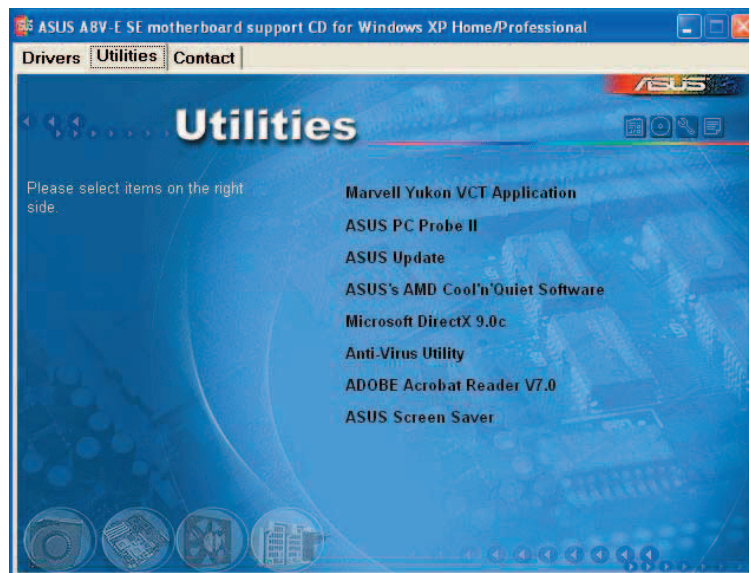
USB 2.0 ドライバをインストールします。

AMD Cool 'n' Quiet Driver

AMD Cool 'n' Quiet!™ Technology ドライバのインストールウィザードを起動。

3.2.3 ユーティリティメニュー

マザーボードで使用できるアプリケーションやユーティリティをインストールします。



Marvell Yukon VCT Application

Marvell® Yukon Virtual Cable Tester (VCT) アプリケーションをインストールします。VCT は、LANケーブルの異常を分析し報告するケーブル診断アプリケーションです。

ASUS PC Probe II

このユーティリティはファンの回転数や、CPU温度、システム電圧を監視し、何か問題がある場合に警告します。このユーティリティを使えば、コンピュータをいつでも正常な状態に維持できます。

ASUS Update

ASUS Webサイトから最新バージョンのBIOSをダウンロードします。



ASUS Updateのご利用には、インターネット接続が必要です。

ASUS AMD Cool 'n' Quiet Software

ASUS AMD Cool 'n' Quiet! をインストールします。

Microsoft DirectX 9.0c

Microsoft® DirectX 9.0 ドライバをインストールします。Microsoft DirectX® 9.0 は、コンピュータのグラフィックとサウンドを拡張するマルチメディアテクノロジーです。DirectX®はコンピュータのマルチメディア機能を向上させるので、TVや映画、ビデオキャプチャ、ゲームをよりお楽しみいただけます。アップデートは Microsoft Web サイト (www.microsoft.co.jp) で。

Anti-virus Utility

コンピュータウイルスからパソコンを守ります。

ADOBE Acrobat Reader

PDF (Portable Document Format) ファイルの閲覧、プリントができる Adobe® Acrobat® Reader をインストールします。

ASUS Screen Saver

ASUS Screen Saver をインストールします。アイドル状態の画面に花を添えます。

3.2.4 ASUS コンタクトインフォメーション

このマニュアルの表紙の裏にも記載してあります。



